令和6年度

社会福祉法人瀬谷はーと　事業報告

2025年6月

～法人理念～

1. 障がいのあるすべての人が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を住み慣れたまちでおくれるよう支援します。

2. 障がいのある人の意向を尊重して、必要なサービスが総合的に提供されるよう創意工夫していきます。

～基本運営方針～

1. 障がいのある人の自己決定・自己選択を支援し、自分らしい生活を実現するための援助を行います。

2. 苦情解決事業を設置し、つねに利用者の視点に立った運営を目指すとともに、サービスの向上に努めます。

3. 障がいのある人やその家族の要望に応えられるよう各関係機関と連携を図り、必要なサービスを提供・創出していきます。

4. 障がいのある人もない人も、ともに安心して暮らせるまちづくりを目指して地域交流をすすめ、障がい理解のための普及に努めていきます。

障がいのあるすべての人の尊厳を守り
想いを受け止め
そして寄り添う

法人理念 2
目次 3
1 はじめに 4
2 法人運営
(1)理事会・評議員会等の開催 5
(2)法人事務局 9
3 相談事業部(法人型地域活動ホーム機能)
(1)瀬谷区基幹相談支援センター 11
瀬谷区自立支援協議会 15
(2)計画相談支援事業 20
(3)横浜市障害者自立生活アシスタント事業 22
(4)自立生活援助事業 24
(5)横浜市障害者後見的支援制度(まんまる座) 26
4 地活事業部
(1)法人型地域活動ホーム日中活動機能:せや活動ホーム太陽
① 日中支援活動(生活介護・地活センターデイ型)概要 28
② 本館事業にかかわる各担当(入浴・送迎・給食・防災)全体プログラム等活動 31
③ A グループ 36
④ B グループ 38
⑤ C グループ 40
⑥ D グループ 41
⑦ 医務、保健衛生 42
⑧ 喫茶 SUNSUN 43
(2)法人型地域活動ホーム:生活支援機能:せや活動ホーム太陽別館
①生活支援事業 44
②おもちゃ文庫事業 45
③余暇活動 46
5 地域事業部
(1)生活介護事業所すばる 48
(2)生活介護事業所ひらり 50
(3)ハートウォーム 52
6 法人にかかわる委員会活動
① 支援向上委員会 55
② 虐待防止委員会 56
③ ハラスメント防止委員会 57
④ 広報委員会 58
⑤ 防災委員会 59
⑥ きょうされん委員会 60
⑦ 地域交流委員会 62
7 法人型地活・区連携事業 63

1 はじめに

瀬谷は一とにおいて、令和 6 年度は重要な転換期を迎えることとなりました。令和 6 年 6 月に法人設立、せや活動ホーム太陽の 20 周年を目前に控えておりましたが、法人の設立、太陽開設準備室を経て初代施設長、業務執行理事として、長きにわたり法人事業に携わって来られた大塚氏が残念ながら逝去されました。地域の声から法人地活を瀬谷に設立し、瀬谷区をより良く、障がいのある方もない方も安心して暮らせるまちとなる事業、新たに創設する事業を現在の職員と利用者で引き継ぐこととなりました。

また、6 年度は報酬改定により、関連書類の改定として主に個別支援計画書の改定を行い、送迎時の個別配慮や身体拘束についての記載など対応を行ないました。

さらに BCP 作成義務化という点で発災時から事業再開に向け支援職の業務やリスクを検討する事柄の多い一年とななりました。

生活介護の通所 3 事業所は、報酬改定による影響を懸念し、加算取得と通所稼働率の向上という支援職の努力が積み重なり、通所事業では一定程度の収入を確保することが出来ました。一方で補助金事業の補助額は現状維持または微増という状況に加え、相談事業の消費税支払や物価高騰、最低賃金の上昇、業務委託費の上昇等複数の影響を受け支出額が増加して、全体収支は例年になく大変厳しい状況となった 1 年となりました。

ご本人中心とした支援による意思形成支援、意志表出支援など、意思決定支援を主とした支援力を高め事業所運営に取り組むこと、同時に法人事務機能の強化は特に経営力の強化が求められ、法人事務機能として複数年を見据えた資金計画と事業計画は、今後の方向性を示すうえでも重要なこととなることを示された 1 年でもありました。

令和 6 年度の各事業における計画の検討や作成を行なう各事業所の詳細や取り組みに関することについては以下に示します。

2 法人運営

	内容	報告
重点計画	○新卒採用	・媒体を中心に行なうが応募に至らず ・媒体使用時の対応を行なう人員の確保が必要 ・他法人新卒者の応募状況の聞き取り実施 ・求人媒体、法人ホームページ、ハローワーク 福祉のお仕事を通年採用活動実施 ・新卒者の採用に至らず採用困難な年度となった
	○資格研修への派遣	・加算取得に必要な資格所有者を整えた ・強度行動障害支援者研修基礎修了 2 人 ・強度行動障害支援者実践研修修了 5 人
	○賃金改善の検討	・令和 5 年等級表改定による給与規定改定 ・最低賃金額上昇に伴い高卒額変更の可能性あり
	○中期事業計画作成	・計画検討に至らず未作成 ・事業推進で議論し方向性を見出す必要がある
	○人材育成プランの作成	・キャリアアップ形成に繋がる育成計画は未作成 ・新入職職員への研修は継続して定着 ・3 年目以降に必要な育成計画の具体化 ・キャリア形成に繋がるスキル役割を再検討

基本業務計画	○組織運営 ・役員一斉改選への準備 ・法人運営改善・安定の検討 ・育成・組織体制強化	・業務執行理事の他界により理事欠員となった ・職員理事が理事長と毎週事業に関連する協議実施 ・監事の提案により役員会を実施、現状課題を協議 ・管理職、職員理事と役員の情報共有実施 ・課題について指摘、継続して事業課題、運営課題協議 ・新たな理事候補者への打診実施
	○事業運営 ・中期事業計画作成 ・稼働率向上、計画相談増	・中期事業計画作成への議論を行なうことが出来ず ・中期計画は資金、育成が連動する計画として必要 ・収益は向上傾向、3 期比較での稼働率は最大値

	・研修企画	・更に加算取得で限られた定員での増収が必要
	○経営基盤 ・加算取得 ・人材処遇向上 ・新規事業開設準備 ・虐待防止強化	・重度障害者支援加算取得のため要件を満たす職員増 ・新たに基礎研修、実践研修修了者を増やせた ・処遇改善加算は定時支給手当に加え昇給分等に充当 ・虐待防止強化は部長課長職中心に研修企画を実施 ・中期計画未実施と同様新規事業開設検討に至らず
研修	○外部研修	・サービス管理責任者基礎研修、補足研修受講 ・相談支援初任者研修受講 ・強度行動障害支援者養成基礎・実践研修受講
	○内部研修	・個人情報保護研修、虐待防止研修実施 ・ハラスメント防止研修実施

継続事項	○修繕工事	・内装修繕に関して打合せを実施 ・現時点での総額 2,200 万～2,600 万 ・優先順位を持った工事計画案と資金計画が必要 ・植栽の枯に伴うフェンス設置見積概ね 300 万 ・外観と防犯上の観点から着手は必要 ・蛍光灯生産中止に伴う LED 化に掛かる費用概算 ・工事内容により 150 万～330 万の見積もり ・別館移転費用を含め優先順位と資金計画が必要
	○新館づくり	・第 1 期工事完了時期が延びている ・2 期着手は 7 年度 8 月を予定されているが未定 ・着手から最短でも 8 年後に移転の見込み ・立ち退き費用が建設費に置き換えられる予定 ・必要経費すべてを市が補填してくれる状況にない ・移転に係る見積もりと移転費用の捻出計画が必要
検討継続事項	○自己評価表の作成 ○文書処務規程の点見直し	・キャリアパスに繋がる自己評価表は継続的に協議 ・文書規程は再整備の必要あり

② 事務局報告（実地指導・法人監査等）

	内容	報告
実施事項	法人指導監査	・令和 6 年 10 月 10 日（木）実施 文書指摘事項なし
	実地指導	・実施無し

③ その他重要な報告事項

○ 新型コロナウィルスへの対応

内容	報告	
感染状況への対応	令和6年	
	4 月：職員 3 人陽性	7 月：職員 1 人陽性
	8 月：職員 3 人陽性	9 月：職員 1 人陽性
	11 月：職員 1 人陽性	
	令和 7 年	
	・1 月：職員 1 人陽性	
	・新型コロナウィルス 5 類移行後も職場内に置いてのマスク着用を継続 ・本人の罹患時は職務専念義務免除として対応 ・家族の罹患によるものは接触状況、本人の陰性確認により出勤可として対応 ・本人罹患時には有給休暇、職務専念免除の双方を対象職員の状況により柔軟に対応	
○感染対策	・5類移行後もマスクの着用、食事介助等介助場面や利用者支援について予防対策は継続する	

(2)理事会・評議員会・役員会の開催

①理事会開催について

〈第１回理事会〉

日　　時	令和６年６月11日(火)　午後		
場　　所	せや活動ホーム太陽　地域交流室		
出　席　者	理事:5 名　欠席１名〈現在数６名〉	監事:2 名	事務局:2 名
主 な 議 事	①令和5年度社会福祉法人瀬谷はーと事業報告(案)について ②令和5年度収支決算報告について ③令和5年度監事監査報告について ④次期役員候補者(評議員)の推薦について ⑤評議員選任解任委員会開催について ⑤定時評議員会の開催について 〇その他報告事項 ・相談系事業過年度消費税について ・業務執行報告について ・評議員辞任について ・紹介物件検討状況について		

〈第２回理事会〉

日　　時	令和6年11月12日(火)　午後		
場　　所	せや活動ホーム太陽　地域交流室		
出　席　者	理事:5名　欠員1名〈現在数5名〉	監事:1名　欠席1名	事務局:2名
主 な 議 事	①令和6年度上半期事業報告(案)について ②令和6年上半期収支報告(案)について 〇その他報告事項 ・理事候補について ・法人指導監査について ・人材派遣契約、物品購入契約について ・理事長業務執行報告について ・SUNSUN フェスタ開催について		

〈第3回理事会〉

日　　時	令和7年3月11日(火)　午後		
場　　所	せや活動ホーム太陽　地域交流室		
出　席　者	理事:5名　欠員１名〈現在数5名〉	監事:1名　欠席1名	事務局:2名
主 な 議 事	①令和６年度補正予算(案)について ②令和７年度社会福祉法人瀬谷はーと事業計画書(案)について ③令和７年度収支予算(案)について ④評議員会の開催について ⑤業務執行理事選任について 〇その他報告事項 ・相談部体制について ・7 年度事業運営体制について ・理事長業務執行報告について ・理事候補について		

②評議員会開催について

〈定時評議員会〉

日　　時	令和６年６月 26 日(水)　午後		
場　　所	せや活動ホーム太陽　地域交流室		
出　席　者	評議員:5名　欠席２名〈現在数7名〉	監事:1名　欠席1名	理事:2名
主 な 議 事	①令和５年度社会福祉法人瀬谷はーと事業報告(案)について ②令和５年度収支決算報告について ③令和５年度監事監査報告について 〇その他報告事項 ・評議員辞任について ・相談系事業消費税について ・紹介物件について ・理事長業務執行報告 ・6 年度業務委託契約		

〈第２回評議員会〉

日　　時	令和５年3月30日(水)　午後		
場　　所	せや活動ホーム太陽　地域交流室		
出　席　者	評議員:4 名　欠席２名〈現在数7名〉	監事:2名	理事:3 名
主 な 議 事	①令和６年度収支予算の補正について ②令和７年度社会福祉法人瀬谷はーと事業計画書(案)について ③令和７年度収支予算(案)について 〇その他報告事項 ・相談部体制について ・7 年度事業運営体制について ・ハートウォームⅡ運営体制について ・理事候補について ・法人指導監査について ・理事長業務執行報告について ・業務執行理事について		

③役員会開催について

〈役員会〉第１回

日　　時	令和7年2月19日(水)　午後		
場　　所	せや活動ホーム太陽　地域交流室		
出　席　者	理事４名	監事:2名	事務局３名
主 な 議 事	法人の現在について ①法人の現状について ②統括施設長、部長の状況について 　・統括施設長、部長、法人運営について現状を報告 　・現時点での課題共有と役員視点での課題抽出		

〈役員会〉第２回

日　　時	令和7年３月４日(火)　午後	
場　　所	せや活動ホーム太陽　地域交流室	
出　席　者	理事5名	事務局３名
主な議事	ハートウォームⅡについて ①人員配置の課題、利用者支援の重度化に対応する課題について 相談部について ②相談部の情報把握と共有等指揮命令系統について ③自立生活アシスタント登録者転居に伴う対応について ④法人理事、監事について	

④理事、監事名簿
任期：令和5年６月28日～令和7年６月定時評議員会終結時まで

	氏名
理事長	峯村　宏
業務執行理事	大塚　幸三
理事	金邊　雅彦
理事	加田　由美子
理事	大貫　尚
理事	福島　勝
監事	東園　健一
監事	石田　明大

令和６年６月業務執行理事の他界により業務執行理事を担う理事１名が欠員となった
監査課と協議し候補者が見つかり改選時でも可能、改選時までに候補を探すこととなった
業務執行理事不在の間、理事長への報告を週１度行い必要に応じ随時確認を取る事とした

〇評議員会
任期：令和３年６月23日～令和７年６月定時評議員会終結まで

	氏名
評議員	津田　秀幸
評議員	白井　孝幸
評議員	功刀　百合香
評議員	八木澤　恵奈
評議員	鈴木　一紗
評議員	樋野　大禄
評議員	星野　亮

星野氏は田中氏の辞任に伴い令和６年６月評議員選任解任委員会終了時より任期開始

⑤令和6年度の各サービス活動状況（令和7年３月末時点）

〈令和6年度事業所概要〉

事業所名	事業	平均障害支援区分	平均年齢	最高齢	最年少	男:女
せや活動ホーム太陽	生活介護	5.6	35	77	19	35:26
	地活	4.7	48	61	35	6:4
すばる	生活介護	3.7	36	70	23	11:9
ひらり	生活介護	4.7	33	59	18	11:7
ハートウォーム	共同生活援助	4.9	48	69	33	6:5
	ハートウォームⅠ	4.2	45	55	33	1:5
	ハートウォームⅡ	5.6	52	69	40	5:0

〈令和6年度　通所関連事業　年間利用状況〉

事業	事業所名	年度	定員	年間利用者数	年間営業日数	1日平均	前年度年間利用者数	前年度対比	稼働率	契約者数
生活介護	せや活動ホーム太陽	6年	35	8,732	292	29.9	8,040	108.6%	85.4%	66
		5年	35	8,040	292	27.5	8,403	95.7%	78.7%	62
		4年	35	8,403	292	28.8	8,105	103.7%	82.3%	62
地域活動支援センター	せや活動ホーム太陽	6年	10	160	292	0.5	382	41.9%	5%	5
		5年	10	382	292	1.3	463	82.5%	13.0%	6
		4年	10	463	292	1.6	438	105.7%	16.0%	11
生活介護	すばる	6年	20	4,576	247	18.5	4,253	107.6%	92.6%	
		5年	20	4,253	243	17.5	4,047	105.1%	87.7%	22
		4年	20	4,047	245	16.5	4,213	96.1%	82.5%	20
生活介護	ひらり	6年	20	3,246	242	13.4	3,676	88.3%	67.0%	
		5年	20	3,676	242	15.2	3402	108.1%	76.0%	19
		4年	20	3402	243	14.0	3,452	98.6%	70.0%	18
タイムケア	太陽別館	6年	—	1,868	365	5.1	2,150	86.9%	—	894
		5年	—	2,150	365	5.8	2,044	105.2%	—	894
		4年	—	2,044	365	5.6	1,891	108.1%	—	878

〈令和6年度　居住支援関連事業　年間利用状況〉

事業	事業所名	年度	定員	年間利用者数	年間営業日数	1日平均利用者数	前年度年間利用者数	前年度対比	稼働率	契約者数
ショートステイ	太陽別館	6年	4床	782	365	2.1	848	92.2%	52.5%	894
		5年	4床	848	365	2.3	811	104.6%	57.5%	894
		4年	4床	811	365	2.2	647	125.3%	55.0%	878
共同生活援助	ハートウォーム	6年	12	3,915	365	10.7	3,952	99.1%	89.2%	11
		5年	12	3,952	365	10.8	3,822	103.4%	90.0%	11
		4年	12	3,822	365	10.5	4,012	95.3%	87.5%	11

〈令和6年度　各事業給付費等年間収入状況〉

事業所名	事業		合計	前年度差
せや活動ホーム太陽	生活介護	6年度	￥137,418,681	￥7,962,818
		5年度	¥129,455,863	￥-3,855,734
		4年度	¥133,311,597	¥6,660,338
	地活	6年度	￥891,460	￥-1,353,650
		5年度	￥2,245,110	￥-553,874
		4年度	¥2,798,984	¥39,360
すばる	生活介護	6年度	¥35,731,806	￥1,867,396
		5年度	￥33,864,410	￥2,296,791
		4年度	¥31, 567, 619	¥-2,895,978
ひらり	生活介護	6年度	¥36,779,277	￥-2,986,963
		5年度	￥39,766,240	￥5,696,145
		4年度	¥34,070,095	¥-1,840,133
ハートウォーム	共同生活援助	6年度	¥43,124,050	￥470,468
		5年度	￥42,653,582	￥5,531,952
		4年度	¥37,121,630	¥2,648,204
太陽計画	計画相談	6年度	¥3,947,558	1,149,238
		5年度	￥2,798,320	￥144,710
		4年度	¥2,653,610	¥577,188

⑥　他の関係団体・機関との連携

法人	横浜市社会福祉協議会	
	瀬谷区社会福祉協議会　　：赤い羽根共同募金寄付	
	瀬谷区内施設関係者ネットワーク会議	
太陽	神奈川県知的障害施設団体連合会（横浜知的障害関連施設協議会）	
	社会福祉法人型障害者地域活動ホーム連絡会	
	瀬谷区児童虐待防止連絡会	
	多機能型拠点こまち運営委員会	
	きょうされん	委員会活動報告参照
すばる	きょうされん（賛助会員）	
ひらり	きょうされん（賛助会員）	

瀬谷区基幹相談支援センター

1 事業所概況

・障害の種別や年齢にも関わらず、相談ができる唯一の相談機関として、相談員 8 名、保健師 1 名体制で主に瀬谷区在住の方の地域総合相談窓口として運営を行っている。
・相談対応に加え、計画相談事業所の強化や権利擁護・虐待防止の取り組み等や、瀬谷区障害者地域自立支援協議会の事務局として、地域の障害者の方が安心して暮らせる地域づくりの取り組みを行っている。

2 重点目標

・知識経験を若い人達に伝えるため、各自が適切な役割りを担い世代交代への準備を進める。
・地域の総合相談窓口として多様な相談を受け止め、対応する。
・地域づくり。そのため、地域ケアプラザなどを通して自治会や民生委員などとの関りを持つ。
・自立支援協議会について、中心となる部会が自主的な活動ができるよう、事務局がサポートしていく。
・「地域生活支援拠点機能」の整備や「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築についても、自立支援協議会として積極的に取り組む。

3 重点計画

・相談員の人材育成と個々の力を発揮できる環境づくり。
・基幹相談・生活支援センター・区を中心に、各事業所、他機関と強い協力関係をつくり、総合的な対応力を上げる。
・幅広く地域の人たちに基幹相談の周知を行い、周知活動の中でも地域の課題を正しく把握する。
・高齢関係機関との繋がりを更に進め、各地域ケアプラザとその地区担当の接点を増やす。

計画に対する達成度・進捗状況・計画変更の有無

・毎週行う支援検討会議で、個別ケース、各自の担当業務の報告や相談を行い職員間で様々な考えを言える雰囲気、環境ができている。
・3 機関で進める高齢・障害の連携強化の動きが継続され、各ケアプラザの訪問を実施した。
阿久和地域ケアプラザとの連絡会は 3 機関とケアマネを対象に勉強会や事業所訪問を実施した。

4 基本業務計画

4-(1)総合的・専門的な相談支援に対する達成度・評価

・新規相談においては必ず支援検討会議で意見出しや確認を行い、基幹の役割と支援方針を決めることができた。また、適宜経過を次回以降の支援検討会議で経過の共有も行えた。
・今年度受入れした新規ケースは数か月後に経過の確認を全体で行ったことで、支援方針や進捗の再確認ができ、取りこぼし防止につながっている。
・事例検討を通じてアセスメント力をつけるだけでなく、司会と記録の役割分担を通じて会議の進行の練習にもつながった。

4-(2)地域の相談支援体制強化への取り組みに対する達成度・評価

・2 次相談支援機関である光の丘相談室に引き続き事務局に加わっていただき、広い視点での助言を得ながら、年 6 回の相談部会を開催。主任相談支援専門員を部会長に迎えて、実務に即した勉強会を実施。アセスメントに焦点を当てた方式で事例検討を行い、相談支援専門員としてのスキルアップにつながる機会となった。
・毎回の部会で相談支援専門員の交流の時間を設け、日頃の悩みや不安を話し、互いに助言しえ合えることで、相談支援専門員同士が支え合える関係性を築く場になっている。
・区内の全事業所を訪問または面談し、各事業所の実態把握しながら個別に相談を受け対応することで、各事業所との関係性を深められた。
・グループワークの中で地域課題についても意識的に検討し、相談支援専門員が個別支援の中で感じる地域課題抽出を試みた。
・定例の部会の他に、新規開所事業所のフォローを目的としたプレ相談部会、児童計画ならではの困り事を共有する児童計画相談支援事業所の集まり、主任相談支援専門員の集まり、も新しく実施した。
・自立支援協議会の他部会との連携を意識して、グループホーム部会との間で交流の場が持てた。

4-(3)地域移行・地域定着促進への取り組みに対する達成度・評価
・各入所施設の見学や研修を行い、現状の把握や課題について検討した。入所施設の役割りを、終の住処ではなく次のステップへの通過点とする取り組みを始めていることを知るとともに、地域移行へ向けた協力体制をいかに構築するかについて、話し合った。 ・基幹の担当者会議で入所施設担当者と基幹担当者とでグループワークを行い、入所側からは『移行へ向けた本人の意思確認の難しさ』が指摘され、共有した。現状、入所施設と基幹のやり取りがほとんどないので、どう連携するかが課題となった。 ・入所施設を知ることが、全体の目的となり、それに合わせた活動を行ったため、西部ブロックとしての活動はしなかった。
4-(4)権利擁護・虐待防止の取り組みに対する達成度・評価
・今年度、基幹の権利擁護担当者会の幹事を務めた。第一回は「意思決定支援」について」の各区の取り組み、課題、基幹として出来る事等を聞く。第二回は事例報告と権利擁護推進のためにどのような人や機関を巻き込んでいくと良いかについてグループワークを行った。 ・サポートネット連絡会に 3 回出席。多職種、専門職の方との事例検討を通して、理解を深めた。 ・法人のグループホーム以外の各事業所に訪問し、「意思決定支援」の支援の中でできている取り組みについての研修を実施。また 3 月に法人全体で「意思決定支援」について」グループワークを取り入れての研修を行った。 ・区連携事業の公開講座を 2 回実施。第一回は「親族後見から第三者後見への移行」について弁護士の根本先生を講師に招いて話をしていただいた。第二回は親族後見人として自身で後見人をされている方2名と横浜市社会福祉協議会障害者支援センターの瀧澤氏に登壇していただき、実際行ってみて大変だった事などをセッション形式でお話しいただいた。また、講師の方お招きし、あんしんノートの書き方講座を 2 回実施。相談コーナーを設置し、個別相談を実施した。
4-(5)その他地域の状況に応じた独自の取り組みに対する達成度・評価
・月 1 回行われている、ケアプラザの地域交流コーディネーター会議に参加し、コーディネーターとの関係を築いた。イベントの情報共有を通じ、地域の情報やアドバイスを受けた。 ・地域力アッププロジェクトに事務局として参加し、墨笑で地活の利用者と地域の人との交流を行った。また、まんまるボッチャ大会の運営に携わり、障害事業所と地域の人との交流の場を設けた。 ・放課後デイサービス保護者会に出席し、基幹相談の説明や障害理解の講座を実施、保護者と懇談した。学童期の情報を知ることができたため、来年度も需要があれば参加していきたい。 ・地域住民との顔の見える関係づくりを目標に、月 1 回の清掃や、地域のイベントとして祭り、餅つき、ひな飾りの片づけに参加した。障害側の考えだけでなく、住民の気持ちを知る場となった。今後も継続していきたい。 ・自主製品体験会は法人地活の地域交流委員会で実施しないと年度途中で決まったため、実施しなかった。来年度、地活の委員会ではなく、独自の取り組みの中の、地域と交流するためのツールとして実施できればと考えている。
4-(6)地域生活支援拠点機能の整備に向けた取り組みに対する達成度・評価
拠点機能の5つの取り組みの中で、①相談「緊急時に向けた備え」に重点を置いてきた。また地域生活支援拠点のみでなく自立支援協議会の取り組みを活用しながら「地域で安心して生活する」ための整備を進めてきた。 ① 拠点担当中心に支援の望めない世帯のカンファレンスを行い、緊急時に備えた準備を具体的に進めた。【3 事業所 6 件】 ② 緊急時に備え、日ごろから住み慣れた家での介護者不在の模擬体験の推奨。体験の場の選択肢を拡大し今年度は法人地活ショートを活用した生活体験を進める準備を行い、予防的側面の意識化を図った。また普及啓発を目的として自立支援協議会では担当者会議、部会長会議、相談部会で報告を行った。 ③ 高齢支援機関との連携はにも包括と共同で取り組み、区内包括を訪問しヒアリング実施。年 1 回包括支援センターとの連絡会関係では好事例の共有を行い、関係作りを進めてきた。 ④ 人材育成・地域作りは自立支援協議会の活動の中で担う。

主な活動計画
5　会議運営
5-(1)事業所会議計画に対する達成度・評価
①　新規受入れの際に互いに意見出しをしながら基幹の役割や対応方針を決めることができ、数か月後に進捗確認を全体で行ってきたことでアイデアやケースの再検討ができた。一方で、継続ケースにおいては各相談員から困りごとの共有はあまりなく、各相談員の力量があがったのか、対応が教条的なのか、ご本人中心の支援につながっているのか検証が必要。 ②　各担当会のたびに報告だけでなく、議事録や資料を共有した。必要な課題は全体で意見交換や協議ができた。 ③　各担当から経過や課題の共有、更に困りごとについては基幹だけでなく法人地活統括施設長等とも相談しながら協議、取組みを行えた。 事例検討を通じて自分事としてとらえながら検討やアイデア出しすることで視点の転換や発見につながるなどスキルアップが図れた。また各相談員の取組みを知り、日ごろの困りごとや悩みを伝え、受け止めてもらう場にもなり、相談員としてメンタルサポート的な側面にもなった。
5-(2)情報共有に対する達成度・評価
・基幹の業務や自立協に関連している事で重要なものはもちろん、それ以外の支援学校での説明会や事業所の保護者会での事など、様々な報告が支援検討会議でされている。
5-(3)その他に関連する達成度・評価
・下半期から新規ケースとして受けた後にある程度時間が経過した継続ケースを順番に担当者が支援検討会議で報告し、他の相談員の意見を聞いたり、みんなで考えたりする時間を設けている。 ・会議以外の時間でも、複数で担当している個別ケース、基幹の業務担当、自立協の部会担当などで打合せを多く行っている。
6　瀬谷区役所、瀬谷区生活支援センターとの連携
6-(1)定例カンファレンスに対する達成度・評価
・各機関から担当者会等の情報共有を行うことができたが、個別ケースの連携や協議を目的とした情報共有はできなかったため、次年度具体的に行っていくための方針を決めることができた。 ・こども家庭支援課のケースを事例検討することで、互いの動きや考え方を知る機会となった。また、その後、実際に新規ケースとして受け入れたケースもあった。
6-(2)分科会活動に対する達成度・評価
①　病院との連携を目的とした成年後見制度のサポートブックについては、区の体制の都合中断することとなった。 ②　個別ケースを包括と共に取り組める関係性を目指し、高齢分野との連携として、全 CP を 3 機関で訪問し、包括から見た障害分野とのかかわりや懸念事項などの意見交換ができた。また、包括連への出席を通じて、各包括と具体のケースを通じた好事例の共有や意見交換も行うことができた。さらに、次年度に向けてさらに関係性を深めていくために各包括への出張相談会を企画し、次年度に実施する段取りを組んだ。
6-(3)その他に関連する達成度・評価
基幹の主任連絡会などで二次相談支援機関との懇談会や支援学校との進路懇談会で得た情報を共有した。実際に個別ケースの検討の中でそこで得た情報を再確認するなどして日ごろの支援に役立てることもあった。

7　研修
7-(1)外部研修計画に対する達成度・進捗状況
・外部の研修を特に経験の浅い相談員に参加を促している。
7-(2)内部研修計画に対する達成度・評価
動画教材の視聴や法人全体での研修を通じて基礎知識などを学ぶ機会があった。また、グループワークや意見を伝えあうなどを通じて、講義や動画で得た知識のアウトプットも行った。

瀬谷区基幹相談支援センター相談対応件数

利用者支援状況（令和７年３月末まで）					
区分		実施エリア内		実施エリア外	
		延件数	実人員	延件数	実人員
相談者	本人	1442	1269	125	156
	家族	544		39	
	支援者、関係機関	1433		410	
	その他（近隣住民等）	6		3	
相談経路及び対応（　）内は新規件数	来所	483		37	
	訪問	338		65	
	電話	2277		407	
	電子メール・〒・FAX等	114		36	
	同行	165		22	
	その他	48		10	
	療育等指導（訪問による健康診査）	0		0	
相談件数　合計		3425		577	
緊急対応		0	0	0	0
区役所閉庁時の対応（電話、訪問、面談含む）		0	0	0	0
個別支援会議（ケア会議）		81	71	34	25
【計画相談】相談支援専門員主催の各会議		3	3	6	7
相談内訳	福祉サービスの利用等に関する支援	1546		251	
	障害や病状の理解に関する支援	276		22	
	健康・医療に関する支援	438		26	
	不安の解消・情緒安定に関する支援	551		42	
	保育・教育に関する支援	50		6	
	家族関係・人間関係に関する支援	639		71	
	家計・経済に関する支援	193		91	
	生活技術に関する支援	1217		244	
	就労に関する支援	292		89	
	社会参加・余暇活動に関する支援	77		4	
	権利擁護に関する支援	53		3	
	視覚障害者等情報弱者への朗読等支援	0		0	
ピアカウンセリング		0		0	
主たる障害	身体障害	250		6	
	知的障害	2243		534	
	精神障害	607		37	
	重心	0		0	
	高次脳機能障害	11		0	
	発達障害等	288		0	
	その他・不明	26		0	
対象者年齢区分	18 歳未満	265	127	77	21
	18～64 歳	3082	1115	500	135
	65 歳以上	78	27	0	0

瀬谷区基幹相談支援センター（自立支援協議会運営）

1 瀬谷区障害者自立支援協議会の運営概況

・区役所、生活支援センターと協働し事務局機能の中心として自立支援協議会運営に携わる。
・活動の主体を各部会とし、事務局は各部会のサポートをする、という運営を目指しており、次年度より再構築に動き始めている。
・各部会の目的や方向性を確認するための１年が過ぎ、今年度は具体的な活動に反映させる時期とする。

2 重点目標

・事務局として、各部会の活動がその目的に即しているか進捗を把握する。
・事務局の具体的な活動は何かを明確にして協議会運営に繋げる。
・日中活動支援部会の活動は多岐にわたるため特に進捗の把握を行い、事務局としての支援を行う。

3 重点計画

・部会長会議とそれに伴う事務局会議の定期開催と会議内容の適正化を行う。
・各部会の担当者が部会に参加する際に事前の打ち合わせ、振り返りを適切に実施する。

計画に対する達成度・進捗状況

・事務局会議：5 月　6 月　8 月　9 月　開催
・代表者会議、交流会、部会長会議の前には必ず、事務局会議にて目的、内容の確認を行っている。
・各部会の事前の打ち合わせは、基幹内での打合せの上、可能であれば各部会の主要メンバーと行っている。特に、日中活動部会では運営を行うコアメンバーに入り、部会運営の形を整えつつある。

3 会議運営計画

3-(1)代表者会議実施に対する達成度・評価

実施日：4 月 22 日　参加機関：39 機関 43 名、事務局 17 名　計 60 名

内容

・自立支援協議会と代表者会議の趣旨説明をし、共通理解をはかった。
・瀬谷区地域福祉保健計画の説明を区社協からしてもらい目指す方向性が同じであることを確認し、連動していくことを説明した。
・前年度の活動報告と今年度の活動予定を事務局より共有
・今年度取り組みたいことや各事業所や団体の課題と感じられることについて、区内の代表的な法人や学校、団体より発表してもらうだけでなく、地区ごとにグループワークも行い、課題だしや意見交換を行った。その中で出た意見（防災について）を今年度の年間を通じた交流会議のテーマにした。

3-(2)担当者会議（交流会議）実施に対する達成度・評価

第 1 回実施日：7 月 24 日（2 部制）

参加機関	【1 部】17 機関　1 部 23　名、事務局　9名　計　32 名
	【2 部】11機関　16 名、事務局　12 名　計 28　名　　合計：60 名

内容：防災講座①「防災の三助と福祉避難所について知る～一市民、福祉関係者として知っておくべきこと～」をテーマに、区役所職員を講師に招き、「自助、共助、公助」

第2回　実施日：10 月 2 日

参加機関：　24　機関　36　名、事務局　17　名　計　53　名

内容：防災講座②「今からできることを考える防災準備～被災地支援経験のある福祉関係者に話を聴く～」をテーマに実際に能登半島地震の被災地支援に行った区内の福祉関係者に有事の際に必要なことや BCP の実効性について講演してもらった。有事の際は地域住民との共助が必要不可欠であり、日ごろの関係構築が必要であることや実際の災害支援に参加したからこそわかる BCP 作成の観点やポイントを知ることができた。

第3回実施日：12 月 9 日

参加機関：　20　機関　25　名、事務局　15 名　計　40 名

内容：防災講座③「自助から共助へ～BCP を元に各関係機関でできることとつながりを考える～」をテーマに過去の防災講座①②を踏まえて繋がりづくりや各事業所内の備えや困りごとの共有を行った。実際に事業所の所在地を元に地区ごとにグループワークを実施し、地区の中で多くの事業所が自助の取組みを共有し、共助への取組みを考えるきっかけになった。
第4回　実施日：2/27
参加機関：　38　機関　46 名、事務局　16　名　計　62　名
内容：令和 6 年度の振り返りとして、各部会等と事務局の活動報告を行った。各自が参加する部会以外の動きや活動内容を知る機会となり、構成員の皆さまからも好評だった。一部の部会では横の繋がりとしてコラボ企画もあり、活発な部会活動を知ってもらうことができ、次年度への活動アイデアにもつながった。

3-(3)事務局会議実施に対する達成度・評価
実施回数：7 回 事務局構成：区障害支援担当、瀬谷区社会福祉協議会、生活支援センター、基幹相談支援センター
第 1 回　実施日：5 月 23 日
参加機関：事務局　7 名　計　7 名 内容　①グリーンエキスポについて　②代表者会ふりかえり　③今年度の交流会テーマと内容、 ④部会長会議について 評価　代表者会で出た声のうち、防災への関心度が強かったことから年間の交流会テーマを「防災」に決定。部会長会議を 5 年ぶりに再開し情報共有から始めることを決めた。
第2回　実施日：6 月 20 日　参加機関：事務局　9　名
内容：①今年度の交流会テーマと内容の具体化、②部会長会議実施に向けた準備 評価：交流会では、3 回講座で交流会で勉強会やグループワークをして防災知識や情報を獲得し、普段の支援に行かせるようにグループワークを取り入れるなどの各回の内容、構成の大筋を決定した。また、1 回目の部会長会議の流れを検討し、今年度から同じ方向性である地域福祉保健計画との連動について　、各部会でどう取り組めそうかや部会の参加者が広い視野で部会へ参加するためにもまず部会長へその意識をしてもらうよう伝えることを決めた。そのほか、年間をかけて自立協のSNS（フェイスブック）の運用を検討していくことを決めた。
第3回　実施日：8 月 6 日参加機関：事務局　11　名
内容：①第1回交流会議の振り返り　②第2回交流会の準備　③部会長会議 評価：①事後アンケートから参加者より概ね満足との結果が得られた。区職員による防災や福祉避難所の基礎知識の講義内容は、幅広く知ってもらう必要があるため、欠席者や各事業所職員の先にいるご利用者様やそのご家族様へも情報が伝わるような工夫（例：動画録画やその活用）が必要かもしれないなどの意見を共有。②被災地支援経験者を招き講演をしてもらうにあたり、経験から日々の支援を変えたことや変え始めたことや地域との繋がりを作る大切さに気付くだけでなく行動変容への意識づけになるような構成を検討した。③第 2 回開催に向けた内容の決定。特に地福との連動を鑑み、地区社協分科会へ部会長に参加してもらう方向性を決めた。
第4回　実施日：9 月 19 日　参加機関：事務局　10　名
内容：①第 2 回交流会の最終確認　②区社協分科会への参加について　③気になる部会の情報共有（児童部会、地域力プロジェクト） 評価：①講師との事前打合せの中で同じく被災地支援に行かれた法人理事長が BCP の作成において実際に考える必要のあることを自事業所の BCP の一部を共有しながらお話くださることになった。②分科会への参加は地域事情もあることから地域交流に関心のある事業所が参加する方が好ましいため部会長だけでなく、各事業所へも呼びかけることを決定した。③以前緑区で開催された大規模なスポーツイベントを瀬谷で開催したいとの声が地域力プロジェクトで上がっていることの共有および、児童部会では構成員が多職種ゆえにまとまりがなく事務局（基幹）や放課後等デイサービス事業者への課題の声がある現状を共有した。
第 5 回実施日：10 月 23 日　参加機関：事務局　10　名

内容：①第 2 回交流会の振り返り　②第 3 回交流会の打合せ 評価：①事後アンケートをもとに振り返り。現場と管理者視点のそれぞれを知る良い機会となっただけでなく、防災にむけた日頃の事業所間連携や地域との繋がりの必要性を多くの参加者が気づくことができた。また、講師にアンケート結果を共有した。②第2回の振り返りを元に各事業所で既に取り組んでいる防災や地域連携を共有し、具体的な備えをグループワークでみんなで考えていくことを決めた。
第 6 回　実施日：12 月 19 日　参加機関：事務局　10　名
内容：①第3回交流会の振り返り　②第4回交流会の内容と構成検討　③次年度代表者会内容と構成の検討　④地域団体の自立協への参加と区内の減災共助の会への参加について 評価：①アンケートとグループワークの記録をもとに振り返り。各事業所において自助は積極的に取り組みをしているが、近隣事業所同士でその動きをしり共助へと繋げていけると良いとの意識確認ができた。一方、交流会だけで防災を考えることには限界があるため、プロジェクト化の必要性も今後検討の必要性の声があがった。②1年間の活動報告と次年度の活動予定を共有する場とすることを決定し、併せて予算案を各部会で出して貰うことも決定した。③前年度と同じ構成としつつ、6年度は報酬や法改定があったことから一層の地域との連携が求められるため代表者会でも確認することとした。④会長が自立協会長として参加している外部会議の把握をし、継続して携わることができる方法を長期的に考えていくこととした。
第 7 回　実施日：3 月 12 日　参加機関：事務局　10　名
内容：①第4回交流会の振り返り　②7年度代表者会議内容の確認　③7年度交流会議の開催日程の決定　④事務局会議の在り方について 評価：①アンケートをもとに振り返り。普段かかわりのない部会の動きを知ることで次年度の付帯的な連携や活動へ興味付けとなった。②代表者会の本来の目的と自立協の目的や役割を横浜市のガイドラインに基づく内容を拠り所とすること等も含め事務局内で確認し、順次整備することを決めた。 ③次年度も年間でのテーマを決めるため代表者会ででる声をもとに検討していくことと、今年度から開始した「防災」の継続取り組みを決定した。④部会が活発になってきたことを受け事務局の在り方も変化が求められる印象があるため今後検討していくこととした。

3-(3)部会長会議実施に対する達成度・評価
実施回数：　3　回 構成：各部会長、プロジェクトリーダー、生活支援拠点担当者、区、生活支援センター、区社協、基幹
第 1 回　実施日：7 月 1 日　参加機関：　7 機関　7 名、事務局　11　名　計　18 名
内容：①目的の確認　②各部会の情報共有　③代表者会の内容共有　④交流会について 評価：5年ぶりの部会長会議再開のため、各部会の情報共有を通じて部会を超えた繋がりや関心を持ってもらうことを目標としたことを共有した。実際に、各部会の事務局同士で部会のコラボ企画なども進んでおり、部会長会議で共有することができた。
第2回　実施日：10 月 23 日　参加機関：　5 機関　5 名、事務局　10 名　計　15　名
内容：①各部会の進捗や情報共有　②交流会内容（防災）の共有と各部会で共有や協議について 評価：各部会に交流会での動きや内容（防災の意識など）を共有、リンクしてもらうことを事務局から発信したが、部会の中で取り上げているところがなかった。各部会単体の活動だけに終始してしまいがちで、部会の単位や部会を超えた中で地域全体の課題や防災などの取組む意識があまりないため、意識づけが課題。
第 3 回　実施日：1 月 23 日　参加機関：　7 機関　7 名、事務局　11 名　計　14　名
内容：①各部会の進捗や情報共有　②交流会（各部会の活動や次年度の予定の発表）の準備について ③部会長会議の振り返りと次年度の活動について 評価：部会長会議の振り返りや活動についての意見が殆ど出てこなかったが、互いの活動の共有ができたため、当初の目標は達成できた。次年度は事務局で部会長会議の目的や方向性を明確にする必要があることが分かった。また各部会等において、次年度に向けて、活動目的の明確化や内容などを年度末までに決め、円滑な部会運営や活動につなげて頂くよう事務局からお願いをし、戸惑いの声も一部あったが、概ね理解を得られた。

5 専門部会開催計画

5-(1)相談支援部会実施に対する達成度・評価

実施回数 6 回
部会実施内容・評価
・主任相談支援専門員を部会長に迎え、相談支援専門員の実務に即した勉強会と事例検討を実施。相談支援専門員としてのスキルアップにつながる機会になった。
・二次相談支援機関である光の丘相談室に事務局参加していただき、広い視点での助言を得て相談部会を企画運営出来た。また事例検討においてスーパーバイザーとしての助言をえられた。
・相談支援専門員同士の交流の時間を毎回設け、一人職場で孤独になりがちな相談支援専門員が、地域の中で繋がり支え合える関係性が築けてきた。
・参加者全員で役割分担をすることで、相談部会に相談支援専門員が主体的に参画し、積極的な意見交換や交流にもつながっている。
・主任相談支援専門員と基幹相談支援センターが一緒に、区内の全事業所を訪問または面談。各事業所の実際の様子がわかり、直接事業所からの相談ごとへの対応もできて、各事業所と主任相談支援専門員・基幹相談支援センターの関係性も更に深められる機会となった。
・新規開所の事業所を対象に、定例の部会の他にプレ相談部会を開催。安心して事業展開できるようにまた、相談部会に早くなじめるようフォローの場を設けた。

5-(2)日中活動支援部会実施に対する達成度・評価

部会実施回数4回
部会実施内容・評価
部会内外でのつながりづくり、自主製品販売、啓発活動の3つを目的に掲げ活動を行った。同じ日中活動の事業所であっても、事業形態等の違いでお互いの活動内容をほとんど知らないことが多いことから、意見交換やグループワークを通じて悩みや情報共有をしやすい環境を整えていった。また、地域のイベント出店、自主製品販売、4区合同駅前マルシェ参加、SNS や城南信用金庫での事業所紹介の啓発活動を引き続き行った。
部会運営： 部長以外にも主となるメンバーをコアメンバー(基幹担当も入る)とし、部会やその他の販売活動などについて相談をしながら進める形を年度初めに作り、1 年をかけて定着してきた。
【部会実施内容】
・6月・・・新規加盟生活介護事業所の紹介 グループワーク 「横のつながり」「高齢化」「研修会」
・9月・・・横浜市多機能型拠点、生活介護・就労継続支援 B 型の紹介
グループワーク 「事業所のなやみごと」
・12 月・・・機能強化型活動ホームの紹介 グループワーク「各事業所で行っている地域に知ってもらう活動について」
・3月・・・中途障害者地域活動センターの紹介 グループワーク「R7年度参加するプロジェクト(仮)でどんなことができるか」

5-(3)グループホーム部会実施に対する達成度・進捗状況

実施回数 3回
部会実施内容・評価
・横のつながりを深めるという目的は、必ず部会の次第に載せ、確認を取っている。
・児童部会で部会長、副部会長が講師として GH について知ってもらう講義を行ったり、相談部会から主任相談支援専門員を講師として迎えて GH との連携についてを学んだりして部会を超えて勉強会を行った。
・地域連携推進会議を予定している GH の取り組みを参考にしたり、GH の BCP を考えたりした。また入居者の服装について GW を行い、意見交換しながら交流を深めた。
・グループホーム紹介では、サテライト型のグループホームを取り上げた。
・泉区と旭区のグループホーム部会とも交流を持ち、運営の仕方などを学んだ。

5-(4)児童部会実施に対する達成度・評価
実施回数　3 回 部会実施内容・評価 ・前年度の振り返りを同業種でのグループワークを通して行っている。また今年度から交流の時間も設けて部会を開催した。 ・ライフステージに添った支援という事で、卒業後の生活をテーマにグループホームについてグループホーム部会の部会長と副部会長をお招きし、「シェアタイプ」と「アパートタイプ」のグループホームの話をしていただいている。 ・「性教育について」講師の間賀田先生をお招きし、支援者としての向き合い方や伝え方について、講義を行っている。 ・来年度から、以前から要望があった、放デイ連絡会を発足するため放デイの方との話し合いを行った。 ・新しく部会長と副部会長の選出を行うためのアンケートを実施。

5-(5)地域力プロジェクト実施に対する達成度・評価
実施回数　7　回 部会実施内容・評価 ・コロナ禍で途絶えた区社協、ケアプラザとの関係を再構築するために区社協へ当プロジェクトの活動と地域との関わりについて相談をした。 ・地域へ障害分野の事を知ってもらう目的として、まず自立支援協議会を知ってもらうことを目的に区社協分科会と自立支援協議会の意見交換会を区社協主催で開催してもらった。その中で、協議会や過去に地域で行ったまんまるクラフトの事例紹介を行い、今後の連携のイメージ作りに役立てて貰った ・地域の方への理解啓発の一環として、区内放課後等デイサービスの余暇活動である墨笑アート体験(12月)と障害のあるなしに楽しめるスポーツイベント(インクルーシブスポーツ)としてボッチャ交流会を3月に地域の方がたと共に行った。

6　連絡会
6-(1)精神保健福祉連絡会実施に対する達成度・進捗状況
実施回数　5　回 部会実施内容・評価 ・支援者向けの内部講座として能登半島地震の被災地支援に行った薬剤師の方を講師として招き、有事の際や有事に備えた薬の管理や医療との関わりについて学び、日頃の支援に役立てられることを考える機会を持った。

計画相談支援事業

1 事業所概況

・障害者総合支援法に基づく指定計画相談サービスを提供し、各種サービスの利用援助・調整、関係諸機関との連携など、地域生活に必要な支援を適切に行う。
・行政、医療、障害福祉サービス事業所、基幹相談支援センター・地域資源の活用も含めたサービス等利用計画と定められた期間ごとにモニタリングの実施、モニタリング報告書の作成を行う。
・契約者 56 名（R7 年 3 月末現在） 瀬谷区在住 47 名 旭区在住 8 名、泉区 1 名

2 重点目標

① 本人中心の支援を展開する。
② 相談支援スキル向上を行う。
③ 関係機関との連携強化を行う。
④ 緊急時の支援を見据え、日々の相談業務に取り組む。

3 重点計画

① 意思や人格を尊重し、心身の状況や置かれている環境に考慮して障害福祉サービス等を適切に利用することができるよう、ご本人の立場に立った計画相談支援を行う。
② 日々の所内申し送りによる情報提供や内部ケース検討会の実施、自立支援協議会相談部会への参加や勉強会等を通して、新たな知識の獲得や業務の振り返りから気づきを得て相談支援のスキルアップを図る。
③ 関係機関との関係性をより深められるように、訪問などの機会を通して顔の見える関係性づくりを進めてく。適宜関係者によるサービス担当者会議等を設け、共通認識のもとで支援する。
④ 緊急時予防対応プランの作成、災害時リスクアセスメントシート作成に取り組み利用者に起こりうるリスクを把握し、課題・対応を把握し有事に対する備えを行う。

計画に対する達成度・評価

① 利用者の意思形成・表出の機会を確保し、意思決定支援を踏まえた計画相談支援を行った。
② 自立支援協議会相談部会へ毎回参加し、ケース検討、勉強会、情報交換を実施し、スキルアップを図った。
③ サービス等利用計画担当者会議などを通じて、関係機関との関係性を深め、チーム支援を意識した取り組みを強化した。
④ 緊急時予防対応プランについては事例検討会にて対応方策を検討した。災害時リスクアセスメントシートについては緊急避難先の確認、基礎情報シートの整理を行い、相談業務に生かした。

4 主な活動計画

4-(1)新規契約に対する達成度・評価

太陽・すばる・ひらり・GH・まんまる座・自アシ・他事業所利用者の計画相談ニーズを把握し、未契約者対象者に対し利用促進を行い新規契約に繋げた。内訳は太陽 2 名、まんまる座 3 名、GH1 名、他事業所 2 名、自アシ 2 名、計 10 名の新規契約となった。
次年度は新規契約者を更に増やすように積極的に取り組む。

4-(2)地域生活支援拠点機能の推進に対する達成度・評価

親亡き後の問題や親の高齢・病気またはサービス利用の少ない世帯などを対象に、基幹相談主体の地域生活拠点カンファレンスを行い、緊急時予防対応プランの作成などを通じて契約者の将来に向けた準備や日ごろからの見守り体制の検討、整理をする機会となった。
BCP、災害対応体制とも関連して拠点機能の強化を図る視点を持てた。

4-(3)相談員としての質の向上に対する達成度・評価

自立支援協議会相談部会へ毎回参加、集団指導への参画、計画相談会議を通じて基幹相談支援センターとの連携を強化しながらスキルアップに努めた。外部研修や講習会を通じてインテーク・アセスメントなど基本的なケアマネジメント技術を学習するとともに、地域関係機関との連協を強化し、円滑なケース支援を行った。

5　法人内事業所連携
5-(1)基幹相談支援センター、せや後見的支援室との連携に対する達成度・評価
各事業の課題・運営状況を共有するとともに、連絡調整や支援の質の向上に向けた人材育成と安定した業務遂行に向けた協議を行い、相談系事業所全体の情報共有を行った。各部署の業務の進捗確認、各事業所間の予定の共有と役割確認、困難ケースの共有や課題解決のための協議を行った。
5-(2)法人内生活介護事業所との連携に対する達成度・評価
サービス等利用計画作成・モニタリング実施のタイミングに合わせて状況把握と支援方針についての検討を行った。利用者の意向を反映した質の向上を図るため、法人内介護事業所の個別支援計画の支援方針ともすり合わせながらサービス利用の適正化に努め、必要な見直しを行った。 3 月末現在太陽本館 23 名・すばる 4 名・ひらり 5 名が法人内事業所を利用中となっている。
5-(3)その他の実施に対する達成度・評価
本年度は要件を満たす基幹相談支援センター職員として 2 名の初任者研修受講を行った。 法人内計画相談事業全体の全体の底上げと支援の質の向上を図るため、相談系事業所・地活事業部・地域事業部間の連携強化の中で計画的に相談員の育成体制を整えていく必要がある。 また、相談支援専門員の育成のために初任者研修をはじめ相談従事者向けの研修等受講を勧奨していく。

計画相談支援事業

契約者（令和７年３月 31 日現在）			
計画相談支援	56 名（うち瀬谷区在住　　名・旭区在住　　名　泉区　　名　）		
障害児相談支援	０名		
相談受付：計画相談作成およびモニタリング件数			
４月	合計 17 件（計画作成３件・モニ 14 件）	５月	合計 26 件（計画作成 3 件・モニ 23 件）
６月	合計 16 件（計画作成１件・モニ 15 件）	７月	合計 19 件（計画作成７件・モニ 12 件）
８月	合計 18 件（計画作成６件・モニ 12 件）	９月	合計 19 件（計画作成３件・モニ 16 件）
10 月	合計 20 件（計画作成５件・モニ 15 件）	11 月	合計 22 件（計画作成５件・モニ 17 件）
12 月	合計 18 件（計画作成４件・モニ 14 件）	１月	合計 23 件（計画作成５件・モニ 18 件）
２月	合計 15 件（計画作成３件・モニ 12 件）	３月	合計 15 件（計画作成３件・モニ 12 件）
障害児計画相談作成およびモニタリング件数			
実績なし			

自立生活アシスタント事業

1　事業所概況

・令和 6 年度末時点の登録者は 22 名（新規登録者 1 名、登録解除者 4 名、相談中 4 名）。登録解除の理由としては【本人死去、区外転居、介護保険への切替え、自立生活援助への移行】となる。
・現在の登録者の内、委託開始当初（平成 21 年）からの登録者 3 名を含む、10 年以上が 8 名、5 年以内は 6 名。横浜市内の事業全体でみても『知的障がいのある方は長期化しやすい』傾向にはあるが、太陽の現登録者の内、半数以上の 14 名（登録解除者も含む）が、5 年以上支援を続けている、長期登録者の現状がある。新規相談の受付をするためにも、長期登録者の終結基準の共有と見直しを行い、再構築することが、早急な課題となっている。

2　重点目標

・長期化している利用者の終結に向けた課題整理を行う。
・世帯で支援が必要な方の支援課題の抽出と整理を行いサービスへ繋げる。
・支援に必要とされる地域資源の掘り起こしを行い登録者の生活へ繋げる。

3　重点計画

・長期化している要因の精査し必要なサービスなどの検討を行い利用へ向けた支援を行う。
・世帯それぞれの支援機関との関わりやとりまとめ、将来的なリスクの検討を行う。
・ケアプラザや自治会、近隣の商店、病院など、地域生活をする上で必要と思われる場所へ赴き自立生活アシスタント事業の周知、障がい特性などの理解の促進を行う。

計画に対する達成度・評価

・長期化している登録者に対し、介護保険への移行、引継ぎを行い、今年度末で終結に至ったケースはあったものの、日々の困りごとに対する対応について、引継ぎ先などを精査することは出来なかった。
・世帯全体での支援を行っている登録者（夫婦、高齢の親）などについて、将来的なリスクについて検討しきれなかった点も多く、継続して検討を行う必要がある。
・同行などを通じ、本人特性の理解を得るために、情報提供などは行ってきたが、自立生活アシスタント事業の内容について、充分な周知をするまでには至らなかった。新規相談依頼を幅広く受付けるためにも、継続して事業の周知を行っていく。

4　主な活動計画

4-（1）地域生活支援拠点機能の推進に対する達成度・評価

・地域生活拠点機能の内、緊急対応や相談先としての役割は担えると考えられるが、具体的に連携までは行えず、所内や法人内で検討するには至らなかった。自立生活アシスタント障害のある方単身生活や親が高齢などの生活を支える事業であり、登録者の緊急時に対し、連絡手段や対応について関係機関と共有、相談をして来た経緯がある。事業で携わった経験を活かし、まずは法人内での連携や整備について検討し、他支援者や地域とのつながりが持てるようにしていく。

4-（2）障害福祉サービス、サービス外機能利用等の検討に対する達成度・評価

・区役所などの同行時にパンフレットをもらったり、関係機関から制度について教えてもらったりなど、地域で生活する中で、登録者が気になる部分について、どの様なフォローがあるのかなど、情報収集を行うことは出来た。キャリア決済や電子マネー、セルフレジなどの導入が進み、操作がわからない、使いすぎてしまうなど、新たな課題も表出されている様に感じている。安全に使用するために、登録者への説明や対応方法について、検討を行う必要があると感じる。

4-（3）長期登録者への対応に対する達成度・評価

・長期化している登録者について検討する中で、登録者の出来ることや出来ないことなど、関係機関共有認識を持つことが出来ていないことも一因であることを把握。自アシ終結後に代替え可能な制度やサービスについて、関係機関と連携しながら、継続して検討を行っていく。

5　法人内事業所連携・研修会参加

5-（1）基幹相談支援センター、せや後見的支援室との連携に対する達成度・評価

・基幹相談からの相談はあったが、自立生活アシスタントを活用するに至らない状況の方もいた。事業内容について、再度対応可能な部分について、法人内での共有が必要。
5-(2)法人内生活介護事業所との連携.に対する達成度・評価
・法人内の生活介護事業所に対しての事業周知、制度利用が検討可能な世帯について対応を行うことが出来なかった。法人内職員へ事業内容説明を行い、自立生活アシスタント事業が利用可能な世帯に対し、情報提供が行えるよう、継続して対応方法を検討していきたい。
5-(3)研修会参加計画に対する達成度・評価
・全体連絡会(2 回)、西部ブロック連絡会(3 回)、自アシ勉強会へ参加。今年度は自アシ委員として、研修のファシリテーターなどを行った。また、自立生活アシスタント事業の共通パンプレット作成プロジェクトを発足。次年度作成に向け、内容について検討をしている。勉強会では『整理収納について』『自立生活アシスタントならではのアセスメント』など、他ブロックの自アシと情報共有をする機会もあった。 ・アウトリーチ支援員として、市や区で実施された研修へ参加。ひきこもり状態について学ぶ。 ・自立支援協議会の交流会議に参加し、3 回連続開催で防災について学習。震災などの際、登録者の対応について、改めて考える機会となった。また、居住支援協議会と磯子区地活が合同開催をした『知的障がいのある方の住まいを考える』にも参加。障がいのある方が住まいを確保する際の困難さなどを知る機会となった。

自立生活アシスタント事業

令和６年度対応状況			
現在の利用登録者数	22	うち、本年度新規利用登録者数	1
うち、登録に向けて相談対応中の人数	4	今年度の登録解除者数	4
登録解除でアフターフォロー中の人数	1		

登録者の生活状況				
単身生活者	独身寮等の生活	障がい者のみ世帯	同居家族高齢化	その他
12	0	6	3	1

支援方法				
面談［来所］	電話・メール	訪問	同行支援	カンファレンス
45	703	534	327	42

対応の時間帯		
日中（９時～１７時）	夜間（１７時～２１時）	深夜早朝（２１時～９時）
1415	194	42

支援の内容				
心理・情緒	医療・健康	消費生活	就労関連	衣食住
694	606	969	231	814
対人関係	制度関連	連絡調整	余暇支援	その他
105	601	10	1140	545

自立生活援助事業

1 事業所概況

・今年度より対象となる方を協議し、計画相談事業と連動した事業実施を行う。
・障害者支援施設やグループホーム、精神科病院等から地域での一人暮らしに移行された方や、現に一人で暮らしをしており、自立生活援助による支援が必要な方を対象とする。
・利用者の居宅への定期的な訪問を通し、利用者の状況等の的確な把握、一定の期間の中で、個別支援計画に基づき概ね週1回以上利用者の居宅を訪問し必要な支援を行う。

2 重点目標

①単身等で生活する利用者支援
②個別支援計画の作成
③関係機関との連携

3 重点計画

① 定期的な巡回訪問に加え、利用者からの相談や要請のあった際には、訪問、電話、メール等による随時対応を行いながら単身での生活に対する不安の軽減に努め、援助支援に努める。
②利用者のニーズに即した個別支援計画を共同で作成をし、一つずつスモールステップで解決でき、それが実感していけるような本人主体の生活の充実を図るツールとなることを目指す。
③「意向」「適性」「障害特性」「その他の状況及びおかれている環境」に考慮して、適切且つ効果的な手立てや情報の提供ができるよう関係機関との密接な連携を図る。

計画に対する達成度・評価

① R7.1月に新規契約実施。2月以降で定期訪問及び必要に応じた同行支援、調整を含めた電話応対等で随時対応をしている。健康面の不安に関しては受診同行等から健康状態の把握解消に努め、区や関係各所における書類の整理、提出を一緒に行う等の支援も行い単身での生活に対する不安の軽減等に努め支援をしている。
② 利用者のニーズや障害特性を所内の計画相談、地域生活支援員等で情報を共有し個別支援計画の立案のもと、生活課題の解決から本人生活の充実が図れるように1つ1つ本人に丁寧に確認しながら支援を行っている。
③ 一年間に絞った支援期間の中で自立生活援助事業に添ったインテーク、アセスメントから本人の状況や状態を適切に捉え、それらを関係機関と密に連絡を取り情報共有をする事が出来ている。

4 主な活動計画

4-(1)新規契約に対する達成度・評価

今年度は自立生活アシスタント登録者からモデルケースとして1名の新規受け入れを行い、自立生活援助導入に関する流れを確認しながら関連機関と連携して支援する事が出来ている。

4-(2)地域生活支援拠点機能の促進計画に対する達成度・評価

緊急時における支援体制の構築として、現状の自立生活援助、訪問看護での訪問以外における本人の様子変化等の気付き、居住地域で緊急時の受け入れ、対応等の環境整備を今後も検討していく。

5 法人内事業所連携・研修会参加

5-(1)基幹相談支援センター、せや後見的支援室との連携に対する達成度・評価

・計画相談・基幹相談・自立生活アシスタント・後見的支援担当者による月1回の相談系会議を通して各部署の状況や困難ケースの共有、事業間連携が必要なケースを検討して、今年度は1名の契約を結ぶことが出来ている。

5-(2)法人内生活介護事業所との連携に対する達成度・評価

法人内の生活介護事業所職員に対し制度の周知が出来るように方法を考えていく。

5-(3)研修会参加計画に対する達成度・評価

自立生活援助事業の導入にあたり所内で制度に関する確認や打合せ・外部からの情報収集等を行う事が出来ている。今後資質向上の為に外部への研修会等に積極的に参加していく。

自立生活援助事業

利用登録状況			
現在の利用登録者数	1	うち、本年度新規利用登録者数	0
うち、登録に向けて相談対応中の人数	0	今年度の登録解除者数	0
登録解除でアフターフォロー中の人数	0		

登録者の生活状況				
単身生活者	独身寮等の生活	障がい者のみ世帯	同居家族高齢化	その他
1	0	0	0	0

支援方法				
面談［来所］	電話・メール	訪問	同行支援	カンファレンス
0	3	8	5	0

対応の時間帯		
日中（９時～１７時）	夜間（１７時～２１時）	深夜早朝（２１時～９時）
16	0	0

支援の内容				
心理・情緒	医療・健康	消費生活	就労関連	衣食住
8	12	11	0	13
対人関係	制度関連	連絡調整	余暇支援	その他
0	2	0	0	0

せや障がい者後見的支援室『まんまる座』

1 事業所概況

・支援機関や地域住民の方々と連携し、見守りの体制を作っていくことに取り組む、横浜市独自制度事業を運営している。
・障がいのある方やご家族の思いを受け止め、将来にわたり安心して地域で暮らせるように、家族のあるうちから、希望に沿って必要な準備について一緒に考えていく。
＜現在の登録者＞57 名　＜あんしんキーパー＞15 名（うちマッチング 2 名）
＜職員体制＞あんしんマネジャー1名、担当職員1名、あんしんキーパー4名（常勤1、非常勤3）

2 重点目標

・昨年度から全区共通で取り組んでいる「支援室全体でのチーム支援」の実現に向けて、職員間のコミュニケーションを一層重視して機会を設け、登録者のより良い支援を行う。
・マネジャー等のみならず、サポーターも登録者の家族と会う機会を増やし、丁寧にアセスメントを行う。また、重層的な体制の構築のため、必要に応じてきょうだいや親族との面談の機会も作っていく。
・登録者とあんしんキーパーとのマッチングについて、登録者には必要性を理解してもらえるように努め、協力いただける地域の方との顔合わせを行うことで、暮らしの安心が増すよう支援する。

3 重点計画

・登録者を増やすため、各所に出向くほか、まんまる座としても制度説明会を自主的に企画し、制度をより良く活用していただけるようできるだけ多くの方に知っていただけるように努める。
・登録者や家族、またあんしんキーパーも含めた交流会を実施する。
テーマを設定した勉強会を行い、続いて茶話会的に交流を楽しめる形で検討し実施する。
・将来の暮らしに向けた備えとして、成年後見制度の利用促進を目的に、基幹相談と連携し今年度も必要な情報提供の機会として年数回公開講座を実施する。

計画に対する達成度・評価

・事業所等に出向いての説明の機会を得られ、新規の登録にもつながったが、まだまだ機会をいただけるよう働きかけは必要と思っている。今年度は学校関係で説明する機会が多く、新規の登録の確保というよりは、卒業後の将来に向けた普及啓発の意味合いが強かった。
・6 月に登録のあんしんキーパーとの交流会の実施を経て、11 月にあんしんキーパー、登録者や家族との交流会を初開催できた。参加者からいただいた声をもとに、次年度も継続的に実施していく。
・基幹や区との連携で計4回公開講座を実施し、成年後見制度の普及啓発とともに相談機関の紹介、個別相談会を行った。経験を活かし、次年度より区連携事業から支援室の自主事業として企画する。

4 主な活動計画

4-(1)新規登録者に対する達成度・評価

・年度では 4 名の新規登録にとどまった。法人内の各利用者の制度活用の促進を目的に、基幹相談や計画相談、太陽本館と繋がることのメリットの共有や、どのような取り組みが可能か検討を重ねた。
・次年度は外部の開拓とともに、太陽本館での制度説明会の企画、基幹や計画相談の利用者の後見的支援の重層的な活用を目的とした面談の同席など、具体的な取り組みを一層進めていく。

4-(2)地域への普及啓発に対する達成度・評価

・特定の登録者のマッチングを前提に、あんしんキーパーは 1 名登録増になった。
・ケアプラザとは地域交流コーディネーターと情報共有できる関係性は作れ、会合に呼んでもらえたものもあるが、直接的に新たなキーパーの開拓には繋がらなかったので、次年度も連携を深めていく。
・既存の登録キーパーとは、企画に参加してくださった方以外と疎遠になっているが、繋がりの継続のための動きが出来きれておらず、来年度は個別にお会いして関係性を再構築していく。

4-(3)地域貢献に対する達成度・評価

・まんまるマルシェやさとまつり、白姫まつり、瀬谷フェスティバル等にて、地域に向けて制度のアピールの機会は設けてきたが、制度の周知という意味では、さらなる工夫が必要であり、今後検討していく。
・支援室のある商店街主催の白姫まつり等のイベントにおいて、基幹相談や太陽分室とともに、実施前の準備や、実施後の周辺清掃に参加して、微力ながら地域への貢献の機会を持てた。

5　法人内事業所連携・研修会参加
5-(1)基幹相談支援センター、計画相談、自立生活アシスタントとの連携に対する達成度・評価
・相談系会議で各事業を横断して活用している登録者や今後の活用に向けた方の情報共有を行った。 ・地域生活支援拠点の観点から、今後介入も予測される登録者について、基幹と情報交換を行った。
5-(2)法人内生活介護事業所との連携に対する達成度・評価
・登録者のうち、法人内の通所やホームを利用される方については、必要に応じて情報交換を行い、状況の把握に努めた。 ・新規開拓の制度説明は、機会を設ける提案をしており、次年度上半期の実施に向けて企画を進める。
5-(3)研修会参加計画に対する達成度・評価
・障害者支援センター等の主催研修にはテーマから選択し、積極的に参加した。改めて認識できたことや気づきを得て、日常の登録者や家族への支援にも生かせることは多かった。 ・月2回の会議日を有効に活用し、情報交換、共有の機会は以前より増えた。内部の勉強会については一部しか行えなかったが、必要な事柄は多いので、次年度は意識的に機会を設けて実施する。

せや障がい者後見的支援室『まんまる座』

上半期利用登録の状況			
利用登録者実数（３月末）	５７名	うち新規登録者数（３月末）	３名
登録の休止者数（３月末）	２名	登録解除者数　　（３月末）	１名

登録者の概況							
年　代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
	０名	１３名	１４名	１１名	７名	１０名	２名
性　別	男　性	３５名	女　性	２２名			
世帯構成	親族との同居	単身生活	ＧＨ入居中	その他構成			
	３６名	９名	１２名	０名			
障害別（重複有）	知的 A1	知的 A2	知的 B1	知的 B2	精神１級	精神２級	精神３級	身障,他
	５名	１３名	８名	１１名	２名	１０名	２名	６名
成年後見	利用しており第三者後見人	利用しており親族後見人	利用なし					
	２名	３名	52名					

あんしんキーパーの登録状況	
登録者数　１５名（地域：１５名　支援者：０名）	うち登録者とのマッチング数　２名

制度説明実績（周知・啓発）の実施利用者や家族、支援者等向けの制度周知活動
・8/6 せや福祉ホーム家族懇親会　・9/8 二つ橋高等特別支援学校生徒、教員向け講話 ・11/6 瀬谷支援学校保護者学習会　・11/30 地域訓練会成人部 ・1/15 若葉台特別支援学校キャリアデザイン相談会　・2/4 横浜ひなたやま支援学校教員 ・2/7 せやみつ進路ミーティング　・その他公開講座（計４回）の実施

地域に向けた制度理解の啓発活動実績	
４月～５月末	各地域ケアプラザ訪問にて、交流コーディネーター他職員へ制度説明と情報交換
10月20日	瀬谷フェスティバル 2025～制度の PR ブース出店にて地域住民向けに啓発
10月30日	中屋敷地域 8050 問題連絡会～ケアプラ職員、ケアマネジャー、民生委員等

まんまるマルシェ開催実績
令和６年５月２２日・６月２６日・１２月２５日・令和７年１月２２日　計４回の実施 ＊その他 白姫まつりにてブース出店 ８月３日（土）

せや活動ホーム太陽【生活介護・地域活動支援センターデイサービス型事業】

1 事業所概況（生活介護定員 35 人・地域活動支援センター定員 10 人）

・生活介護契約者：66 名（うち 4 月 1 日契約新規利用者 5 人）・地域活動支援センター契約者：5 人
・平均障害支援区分（生活介護）：5.6
・平均通所利用者数（生活介護）：27.9 人

2 重点目標

・ひとり一人が、気持ちや想いを表現しながら、活動・人と繋がる場を提供する。
「自分らしさを活かし、個々の楽しみ・やりがいを見出す」
「気持ちの潤いや新たな一歩へ向けて共に歩む」

3 重点計画

・個々のニーズやその時々の想いを大切にする。
・多角的な視点を持ち、意思決定・その先の行動へ繋がるサポートをしていく。
・個と集団、活動内容の選択など、その人らしく活動できるようにする。
「個へのアプローチ」「自由に選択できる環境作り」を行い、新たな気付きを得られるようにする。

4 計画に対する達成度・評価

・職員会議にて意思決定支援・虐待防止の視点をテーマにグループワークを行った。
日々の支援の振り返りと共に、各利用者がどのような事を思い描いているのか共有・検討した。
・ グループカンファレンスやモニタリング会議を活用し、 日常的に利用者状況の確認した。
活動や環境の見直し・ 新たな取り組みを行う中で、 強みの強化や活動の快適さを検証してきた。

4 主な活動計画

(1)

・換気、消毒を適宜行い、バイタルチェックや顔色・表情・仕草などを通じ体調把握に努める。
・送迎車内においても、換気を行い、安全な運行を徹底する。
・免疫力が低い、感染によるリスクの高い利用者が所属していることを理解し、早めの対応に努める。

4-(1)コロナウィルス・その他感染症対策に対する達成度・評価

・年間を通し、感染予防とし、換気・消毒・空間利用の工夫を継続的に行ってきた。
・4 月～5 月にかけ、コロナ陽性者の報告が利用者 7 名・職員 8 名
重症リスクが高い B グループに関して 4 月 9 日～15 日まで、一時グループ閉鎖を行った。
・7月～9 月にかけては、併用先感染拡大の影響等で、少数の感染があった。
・下半期、大きな感染報告はなく経過している。
入所施設、GH 内で感染者が出た場合、体調確認で休みとなるケースは継続的にあった。

4-(2)養成校実習生受入に対する達成度・評価

ソーシャルワーク実習	田園調布学園大	1 名 6月実施（60 時間） 1 名 8 月実施（120 時間） 実習後ボランティア参加あり。
	明治学院大学	2 名 8 月実施（60 時間）
保育実習	聖ヶ丘教育福祉専門学校	2 名 6 月実施 実習後ボランティア参加あり。
		2 名 2 月実施
	横浜こども専門学校	2 名 10 月実施
	横浜保育福祉専門学校	2 名 11 月実施
介護実習	実施無し	

4-(3)特別支援学校実習生受入に対する達成度・評価

三ツ境支援学校	1 名 3 日間実施（6 月）
瀬谷支援学校	1 名 4 日間実施（5 月）

	1名　2日間実施(5月)
	1名　3日間実施(10月)
	1名　3日間実施(11月)

実習生受け入れの結果7年度4月より5名の受け入れとなった。

4-(4)地域貢献に対する達成度・評価

・地域ケアプラザ実施企画の会場として地域交流室を提供。
企画内において、利用者より自主製品紹介の機会を得る事ができた。
また喫茶利用・注文にも繋がり、太陽がある事や活動内容などを知っていただく機会となった。
・3月末ボッチャ交流会への参加を行い地域住民の方との対戦などで交流を深めた。
練習会として、太陽を会場に2月末にボッチャを実施。
ケアプラ企画へ参加の地域住民に周知し、参加に繋がった。

5　会議運営

5-(1)職員会議(所属全職員にて実施)に対する達成度・評価

・職員全体にて、利用者や事業についての情報を共有した。
・グループワークにて意見交換・共有・検討を行った。

5月　虐待防止・身体拘束防止	7月　意思決定支援・不適切行為
9月　身体拘束適正化	11月　意思決定支援
3月　防災・BCP	

5-(2)正職員会議に対する達成度・評価(常勤職員にて実施)

2024年度は未実施
正職員間で適宜情報共有・相談を行った。

5-(3)日中支援会議に対する達成度・評価(施設長・地活部課長・事業リーダーにて実施)

・施設長・リーダー対象
・より良い日中活動の展開を目指し、情報共有・課題への取り組み・問題提起を行った。
・11月～新規利用者の受け入れ調整・新年度へ向けての検討を行った。

4-(4)グループ会議に対する達成度・評価

・各グループ職員参加
・利用者や活動について、情報共有を行った。
・年1回利用者カンファレンス、年2回モニタリング会議を行い、利用者の変化に応じて支援を行えるようにした。

6　主な研修計画

6-(1)内部研修に対する達成度・評価

5月心肺蘇生講習実施(瀬谷消防協力あり)
9月ドライバー向け虐待防止研修(派遣会社と協働)
12月送迎車リフター研修

6-(2)外部研修に対する達成度・評価

5月～6月、先輩職員より現場支援について、特に送迎・入浴・各障害等について講義・実地研修を行った。先輩職員にとっても伝える事に対する学びの場とした。
障害者支援センター主催の新入職員研修へ派遣
ウィリング横浜を活用し、各階層別研修への参加を行い、基礎知識・スキルアップを目指した。

6-(3)資格取得に対する達成度・評価

サービス管理責任者研修

基礎研修3名	補足研修1名	実践研修1名

相談支援専門員研修

実践研修1名

グループ利用状況

A グループ

2 グループ実績						
平均障害支援区分	4.47		登録者数		17 人	
平均年齢	34.5		新規契約		2 名	
契約終了	0 名					
曜日別登録者	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
生活介護	8人	8 人	6人	8人	9人	5人
地活デイ		1 人	1 人	1 人		

B グループ

2 グループ実績						
平均障害支援区分	6		登録者数		16 人	
平均年齢	29.3 歳		新規契約		1 名	
契約終了	1人		逝去			
曜日別登録者	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
生活介護	8 人	9 人	8人	8 人	8人	8 人

C グループ

2 グループ実績						
平均障害支援区分	4.7		延登録者数		21 人	
平均年齢	39.2 歳		新規契約		2 名	
契約終了	2 名		逝去		本人状況	
曜日別登録者	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
生活介護	13人	11 人	12人	11 人	12 人	8 人
地活デイ	1 人		1 人			

D グループ

2 グループ実績						
平均障害支援区分	5.5		登録者数		17 人	
平均年齢	40.2 歳		新規契約		1 人	
契約終了	0 人					
曜日別登録者	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
生活介護	7人	8 人	9人	8 人	10 人	5 人
地活デイ	1 人					

せや活動ホーム太陽業務分掌

入浴

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	延べ人数
男	2	2	1	2	3	1	11
女	2	2	3	2	2	4	15

午前午後に分け男女それぞれ職員 2 人態勢で入浴の支援を行う。
1 日およそ 2～4 人の入浴希望者、週男女合計では 26 人の入浴を行っている。

1 重点目標

利用ニーズや利用者の身体面・精神面に応じた安全な入浴の提供。

2 重点計画

・身体状況を正しく把握し、適切な介助方法を用いて、入浴介助を行う。
・清潔及び安全な入浴を目的とした環境の整備を行う。
・心身の健康維持とリラクゼーションを取り入れた企画を実施する。

計画に対する達成度・評価

・適切な介助者ペア・各職員のスキル向上により、事故のない入浴実施に繋がった。
・季節によっては、衛生管理に苦慮することもあったが、清掃回数を増やし快適な環境作りが行えた。
・職員体制が整わず、安全に入浴実施できる事を優先とし、2024.5 月より土曜日の入浴を中止した。
・別曜日への振り替え、在宅サービス利用にて調整をおこなった。
・季節を感じ、リラックスできる入浴環境を整えられるよう、委員内で実施内容を明確にしていく事の必要性を感じた。

3 主な活動計画

主な活動計画に対する達成度・評価

・月1回浴室清掃実施
・3月・4月利用者介助一覧の更新、5月新入職員へのオリエンテーション実施
・介助マニュアルの更新を行った
・入浴時のヒヤリハットについても、ミーティングにて共有を図った
・清潔感のある浴室環境を目指し、月1回を目安に浴室清掃を実施した
・10月にリフターベルト故障のため修理、改めて使用時の注意点を全体で確認した
・9月 1 日からタオルリース価格高騰の観点から、各家庭へ説明。
・入浴料金を 300 円から 400 円へ変更
・おしぼりタオルを購入・家庭から持参して頂く事でコスト削減に努めた

送迎

・朝、夕方ともに 7 台の送迎車を週 6 日運行し利用者送迎を行っている。
・交通法規の厳守、乗降時の介助安全確保について徹底するよう取り組んでいる。

1 重点目標

・交通事故、乗降時の事故のない安全な送迎を行う。
・危険箇所、ヒヤリハット報告等、情報共有しやすい環境作りを行い事故防止に努める。

2 重点計画

・全職員に対し送迎に関連する、スキルアップやスキル維持の為、送迎マニュアルを再共有する。
・グループ会議を活用し、情報共有を効率よく行えるよう努める。
・ドライバー、添乗職員間での安全運転に繋がるコミュニケーションの強化を行う。

4 計画に対する達成度・評価

・2 社の派遣委託業者と連絡を取り合い、可能な限り委託運転手での送迎体制を組み、受け入れ態勢、支援業務に余裕を持てるよう調整を行った。

3 主な活動計画

3-(1)事故防止計画に対する達成度・評価

・事故件数と内容について
　物的接触事故：3件発生（人的被害なし）、重大な車両管理事故1件
・ヒヤリハット件数と内容について

年間 20 件（安全確認 3 件、ルートミス 4 件、忘れ物 3 件、車椅子操作 3 件、転倒 3 件、他4件） ・安全運転に関し「法令遵守」安全運転管理者講習会後、安全運転に関する件書面・口頭にて周知 ・日々アルコール検知器使用し、出発前・帰着後の点呼を実施 ・天候や事故、ヒヤリに関する情報を発信し、安全運転の注意事項を伝え、事故防止に努めた。
3-（2）会議計画に対する達成度・評価
・交通規制などの情報は送迎委員へ報告するよう周知し、朝のミーティングにて情報共有を行った。 ・ヤリハットに関しての検証を行い、利用者の乗車位置変更や、ルート改正の検討を行った
3-（3）車両管理計画に対する達成度・評価
次の車検時期を確認できるよう表を作りミスがないように改善した。
研修実施状況
新人職員研修 新人職員が安心・安全な添乗ができるよう、複数回先輩職員が同乗しながら引継ぎを行った。
新規ドライバー研修 新規ドライバー雇用の都度実施。日常点検の指導、ルート上の注意点の指導、運転技能の確認を中心に実施した。

給食
1　重点目標
・「安全に」「楽しい」食事の場の提供、安全な食事管理を行う
2　重点計画
・年 1 回、利用者個々の食形態の見直し・変更・整理を行い、安全な食事管理に努める。 ・お楽しみメニューの継続により、利用者自らメニュー提案し、「楽しい食事」の発展に努める。
計画に対する達成度・評価
・食形態表、食数表の更新。週間食数の作成 ・食器類の購入・補充 ・お楽しみメニュー年 12 回実施 ・ランチボックスとの月 1 回会議実施にて、情報共有・改善を図る
3　主な活動計画
3-（1）事故防止計画に対する達成度・評価
・加齢や身体の変化に合わせて、年度途中にも食形態の変更を行った
3-（2）会議計画に対する達成度・評価
・相違が生じていた食数については、カウント方法の変更により改善した。 ・会議ごとに課題を共有し早期に対応した。 ・ペーストや刻み食の形状には継続的に課題が残っている。
3-（3）その他計画に対する達成度・評価
・お楽しみメニューを通し、利用者自らメニュー提案をし、「楽しい食事」の提供を行った ・年 12 回、行事食と併せて実施した ・年 1 回食形態の見直しを実施した ・毎月給食委員会を実施して、ランチボックスと連携を図り、共有・周知の徹底 ・食堂内の常時換気。テーブル、椅子のアルコール消毒の徹底。 ・食堂とグループ室も活用し、分散して昼食が取れるようにした。 ・体調不良者の下膳箱を分け、早期に消毒作業へ入れるようにした。

防災
1　重点目標
・災害時の避難行動を訓練し、緊急時の速やかな行動・判断力を身につける。
2　重点計画
・年2回（9 月 5 日、12 月 5 日）の防災訓練を実施。 ・災害時に利用者の安全確保に努める動きや、火元を意識した避難、連携を行う。 ・一人一人が災害意識を深め取り組んでいくことが出来るよう働きかける。
計画に対する達成度・評価
1 回目訓練の講評を活かし、2回目訓練の組み立てができ、改めて確認する機会となった。 2 回目訓練では消防からのアドバイスを取り入れ実施をした。事前準備など次年度への課題を作った。 火災想定訓練では、火元確認・初期消火・安全な避難路選択を考える機会となった。 消火器の取り出しなど、新任職員やパート職員も経験する機会となった。 消火訓練では消火器の使用方法を再確認することができた。
3　主な活動計画
3-（1）避難訓練計画に対する達成度・評価
火災想定訓練2回 9 月 2 日（月）　瀬谷消防と協同実施。避難訓練・煙体験・消火訓練 12 月 5 日（木）9月訓練指摘事項もとに訓練実施。 館内　防火防犯担当表の作成
3-（2）防災備蓄管理計画に対する達成度・評価
新たにソーラー充電器を配備し、備蓄飲料水、食料の点検を継続して実施
3-（3）その他計画に対する達成度・評価
心肺蘇生訓練実施 瀬谷消防を招き、実施。各グループ代表者・看護師が参加した

グループ外活動

全体プログラム		
計画に対する達成度・評価		
・委員会実施実績		
4 月 11 日(木)	5 月 9 日(月)	6 月 7 日(金)
8 月 2 日(金)	9 月 9 日(月)	10 月 12 日(土)10 月 24 日(木)
実施状況		
・利用者の日常の様子や希望などを参考とし、利用者主体で、楽しめる企画内容とした。 ・過去に実施した内容と重複せぬよう、思考してアイデアを捻出した。		
6 月 18 日	夏企画	理科実験教室　巨大空気砲・しゃぼん玉大会・空気砲ストラックアウト
10 月 25 日	秋企画	グループ対抗卓上カーリング大会
12 月 29 日	クリスマス企画	全体 BINGO 大会
1 月 23 日		成人を祝う会
・非日常的な現象を視覚・聴覚・嗅覚から感じとることが出来た。 ・内容に応じて、集合し、一体感を感じながら過ごせる工夫を行った。 ・BGM を工夫し、視覚だけではなく、聴覚からも楽しむことが出来た。		
コロナウィルス・その他感染症対策		
・小人数単位での開催を基本とした。 ・成人式など、集合での開催の際は、換気・マスク着用・距離感等に気を付け実施した。 ・行事を通しての感染拡大はなかった。		

絵画教室		
計画に対する達成度・評価		
実施日	参加人数	内容
4月8日(月)	37 名	桜の塗り絵
5月7日(火)	29名	藤の花の短冊作り
6月19日(水)	33 名	七夕飾り作り
7月4日(木)	35 名	折り紙六角形
8月9日(金)	32 名	残暑見舞い葉書作り
9 月 14 日(土)	20 名	SUSUN フェスタの飾り物作り①
10 月 8 日(火)	29 名	ハロウィンの飾り物作り
11 月 11 日(月)	35 名	SUSUN フェスタの飾り物作り②
12 月 4 日(水)	31 名	クリスマスカード作り
1 月 16 日(木)	32 名	絵馬作り
2 月 14 日(金)	30 名	チョコレートにちなんだ飾り物作り
3 月 8 日(土)	21 名	桜の飾り物作り
内容の評価 ・塗り絵・貼り絵などの、パターン化した内容ではあるが、何をするのかが明確であった。 ・季節感を感じられる内容、フェスタ製作を通じ、外部に作品を見てもらう機会となった。 ・講師・利用者間の関わりを継続できるようにし、関係性も良好である。 ・作品作りを通じて、自由な発想の元、参加できるようにした。		

日中余暇支援	
計画に対する達成度・評価	
委員会評価	
・形態を変え、グループ合同企画を実施。 ・小単位での実施であったが、その中でもグループの垣根を超えた活動に繋がった。 ・グループにより、参加人数の差が生じた。曜日の選定が大きく影響している。 ・コロナ禍を超え、段々と外出機会が増えたことからニーズの変化もあると考えられる。	
余暇実施実績	
・9 月 26 日　ビアガーデン	利用者 4 名参加
・11 月 8 日　ソプラノ歌手音楽鑑賞	利用者 11 名参加
・12 月 6 日　鍋パーティー	利用者 7 名参加
・3 月 19 日　忘年会	利用者 6 名参加
【余暇】 ・形態を変え、グループ合同企画を実施。 ・小単位での実施であったが、その中でもグループの垣根を超えた活動に繋がった。 ・グループにより、参加人数の差が生じた。曜日の選定が大きく影響している。 ・コロナ禍を超え、段々と外出機会が増えたことからニーズの変化もあると考えられる。	

地域との交流	
実施状況	
区役所販売	9 月 10 日
	1 月 14 日
	3 月 11 日
三ツ境レク大会	10 月 13 日
瀬谷フェスティバル	10 月 20 日
4 区合同駅前マルシェ	10 月 24 日
青空市場	11 月 6 日
瀬谷センターまつり	11 月 17 日
SUNSUN フェスタ	11 月 23 日
三ツ境駅販売	12 月 10 日
瀬谷北部交流フェスティバル	12月 14 日
ワンステップ祭り	10 月 29 日
三ツ境商店街餅つき大会	1月 11 日
瀬谷センター販売	2月 25 日
グリーンエキスポイベント	3 月 19 日
参加人数	
利用者計 8 人、職員のみ参加の場合や職員に加えて利用者と参加の機会が増えた	
内容の評価	
・秋シーズンはイベント開催が多く、可能な限り多くのイベント参加を目指し、地域交流・工賃アップに繋げた。 ・日曜日、祝日は通所曜日外のため職員のみ参加。その他の曜日には、職員体制・イベントスペース・天候等を考慮し各イベント 1～2 名の利用者参加をすすめ、地域交流の機会とした。 ・職員体制の課題をクリアするため、法人内の他事業所と連携を取りながら参加をすすめた。 ・12 月墨笑（太陽会場）、2 月ボッチャ（太陽会場）、3 月ボッチャ大会と、まんまるねっと地域力 UP プロジェクトのイベントに参加し、他事業所・地域住民と共に活動参加・交流をもつ機会を得ることができた。	

A グループ

1 グループ概要

・知的障害、自閉症の方々が在籍している。
・個人スペースやワークシステム等の環境や活動に配慮が必要な強度行動障害の方も活動している。
・運動、作業、レクリエーションを中心に日中活動を提供している。

2 重点目標

・「自分らしく過ごそう」「まずはやってみよう」「地域交流をしよう」

3 重点計画

・場面ごと理解しやすいスケジュールの提示。
・活動と休息、という活動の切り替えとしてメリハリを付ける。
・利用者個々が持っているストレングスが活かせる場を提供する。
・地域清掃やエコキャップ届けを通じて、社会経験や地域との接点を設ける。

計画に対する達成度・評価

・個々の特性に応じた、スケジュール確認を行える方法をとった。
・始まり、終わりの挨拶にて活動・休息を明確にしている。
・日常的な活動や生活場面にて、個々に役割を持ち、活躍場面を設けた。
・月 1 回地域清掃を継続的に実施。エコキャップについては届け先調整に難航し見送り。

4 主な活動計画

4-(1)活動参加支援に対する達成度・評価

・季節にあった創作物を作成し、四季を感じられるように繋げてきた。
　作業工程も個々に見合った内容を提供していくことで、ストレングスを伸ばせられるようにした。
・自主製品作り(バスボム作り)を年間を通して行い、フェスタにて試作品を限定 10 個配布。
　感触を楽しみつつ、個々にあった工程を模索しながら楽しく製品作りに携わる事ができた。
・選択制を用いて、「自分でやる」を意識付けながら活動に参加することができた。
・個々に応じ、自立課題も取り入れ、出来る事を見つける・集中できる時間を設けた。
　個別スペースを活用しながら集中する環境作りも取り入れた。
・ドライブや身体を動かす活動を多く取り入れ、気分転換。発散に繋がった。
　神明台公園に出向き、園内の散策を行ないながら、身体を動かす機会を提供できた。
・12 月～3月に計 5 回半日外出、昼食を食べる企画を実施した。
・社会経験に繋がる活動を提供できた。

4-(2)健康管理支援に対する達成度・評価

・障害特性に留意しながら、バイタルチェックを継続的に行い、体調管理に留意してきた。
・高齢期利用者の身体的変化が著しくあり、介助・見守り方法を検討し対応した。
　横浜リハビリテーションセンターPT 訪問時に、歩行状態・介助方法の評価をもらう。
・家庭や入所先と、体調等の変化も細かく電話連絡等行いながら、体調管理に努めた。

4-(3)生活支援に対する達成度・評価

・年齢や障害特性、発作状況に応じ、一人ひとりに合わせた活動・休憩を取り入れた。
・活動と休息時間のメリハリを設け、過ごしてきた。
・下膳などできる事を通じ、本人の持つ力を日常生活で発揮できるよう働きかけることを継続した。
・ADL 変化に伴い、活動場所の検討・グループ移行検討。安心できる環境作りに努めた。

4-(4)家族支援に対する達成度・評価

・状態像の変化により、生活や活動に対しての不安を抱く家庭に対し、積極的に面談を設けてきた。
・丁寧に話を聞き取り実施家族の思いも受け止め、活動や過ごしに反映できるよう取り組んできた。
・家庭での過ごしを把握することに努め、安心した暮らしができるようにしてきた。
・健康面や将来的の過ごしに関し、動きが取りづらい家庭に関し、多方面からアプローチをしている。

4-(5)コロナウィルス・その他感染症対策に対する達成度・評価

・体調変化を細かく伝えられない利用者が多いため、行動の変化に着目し対応した。 ・入所施設・GH での感染にて休みとなる方がいたが、グループへの影響はなかった。 ・発熱や覇気のなさなど、日頃と異なる様子や行動があった場合には早期に対応した。 ・障害特性に配慮しながら、その時々に応じ、マスク着用・換気・消毒の感染対策を講じた。 ・食事介助時には、フェイスシールドの着用を継続した。
4-(6)その他の支援に対する達成度・評価
・新卒利用者 2 名を迎え、身体を動かす活動ニーズが高まった。 ・個別作業スペースを増やし、必要な場面で活用できるようにした。 ・2025.2 月 50 代利用者 1 名 ADL 変化により、D グループへ移行するため引継ぎ実施。 移行期間を設けたことで、順調に移行ができた。

B グループ

1 グループ概要

・重症心身障害や重度重複障害の方々が在籍している。
日常的に健康面での配慮が特に必要な方や医療的ケアが必要な方々が利用している。
・廃油石けん「つるピカン」の製品作り、季節を感じられるレクリエーション・創作、理学療法士より指導を受けた運動プログラムを主な活動としている。

2 重点目標

・仲間と共に「楽しい時」を作ろう
・自分らしく輝けるようにチャレンジしよう

3 重点計画

・利用者からの発信を捉え、想いの汲み取りを丁寧に行い、利用者同士の想いを繋げていく。
・「やりたいこと」「得意な事」を活動へ繋げ、継続性することが出来るよう取り組む。
・一人ひとりが輝ける場を作れるよう、カンファレンスを通して利用者像を整理し、統一した支援を行う。

計画に対する達成度・評価

・ちょっとした発声・目線の動き等から、「伝えたい」という気持ちに気付けるようにしてきた。
・嬉しさ、楽しさを感じていることを継続的に取り入れた。
・カンファレンスを通じ、身体状況の変化を正しく把握し、適切な介助・支援へ繋げた。
一人ひとりが輝くためにも、健康観察には力を入れ、医務と協働してきた。

4 主な活動計画

4-(1)活動参加支援に対する達成度・評価

・自主製品「廃油石鹸つるピカン」の作業に力を入れてきた。
多数イベントへ出店し、目標個数・現状の売上個数を確認しながら作成意欲へと繋げた。
・季節を感じられる活動を利用者と考え、参加方法を変えながら継続して取り組めるようにしてきた。
・身体状況の変化がある方が多く、横浜リハビリテーションセンターの PT 訪問・各家庭での訪問リハビリに同席し、情報を得られるように取り組んだ。
筋緊張を和らげ、安楽な姿勢保持、筋力維持ができるように努めた。

4-(2)健康管理支援に対する達成度・評価

・状態変化による医療度合いが高まり、新規利用者の医療度の高さがある。
常時吸引が必要な方・吸引の必要性が高まった方もおり、日々医務と情報共有、意見交換をしながら適切な対応ができるように、連携を強化した。
・状態変化を捉えられるよう、通常の状態と見極めながら体調観察をしたことで、異変をキャッチし通院へ繋がり、疾患発見に至ったケースがあった。
・体調不良で入院したのち、医療的ケアが必要となるケースが 1 件あった。(胃ろう造設)

4-(3)生活支援に対する達成度・評価

・体調変化に伴い、安全面に配慮して別館ショートステイ利用の中止の判断。
医療設備の整った宿泊施設へ利用できるよう助言し、対応した。
・計画相談と情報共有し、役割を分担しながら他機関との繋がりを支援した。

4-(4)家族支援に対する達成度・評価

・体調不良や年齢による体調変化、不安感、将来についてなど様々な思いを家族より受け取った。
面談・連絡帳を通して受け止め、計画相談含め不安や悩みに寄り添い、行動する事に努めた。
・通所増、TC 利用の相談 3 名あり医療ケアの方が利用できる受け皿の少なさを改めて感じた。

4-(5)コロナウィルス・その他感染症対策に対する達成度・評価

・4 月上旬　利用者 3 名・職員 1 名の新型コロナウィルス感染。
発生同一時期・免疫力の弱い利用者集団であるため 4 月 9 日～15 日グループ活動休止。
・感染により、基礎疾患等のリスクが高まる利用者が多く在籍している事を常に意識してきた。
・到着時と食後の計 2 回の検温、室内常時換気・手指や備品消毒にて感染予防を徹底した。

・体温や様子を見極め、適切な判断を心掛け、状況に合わせクーリング・医務との連携を図った。
4-(6)その他の支援に対する達成度・評価
・年齢を重ねる上での、ADL 変化もあり、要観察・医療ケアが必要な利用者が 4 名増えている。 ・呼吸を楽にするため活動時に IPV※1使用のケースあり。医務と協働し、安楽な呼吸維持に努めた。 ・活動時間を確保しながら、適切な医療ケア実施ができるよう、スケジュール・方法の協議を重ねた。

※1IPV：肺内を呼吸理学療法しながら呼吸補助を行う 人工呼吸器のこと

Cグループ

1 グループ概要

・知的障害、身体障害、自閉症、高次脳機能障害、難病等、様々な障害のある方が在籍している。
・日常的なコミュニケーショ面や精神面での対応を要し、日々対応している。
・自主製品作りや自立課題にて仕事を意識した活動を提供している。

2 重点目標

・個々に合った、得意なことを活かして取り組む。
・新たな作業を取り入れていき、ステップアップが出来るようにする。

3 重点計画

・一人ひとりに合った作業内容・工程の提供を行う。
・個々の強みを理解し、環境を整え発揮できる場となるよう取り組む。
・作業種を増やし、日々選択しながら取り組める活動内容を設定する。

計画に対する達成度・評価

・好みや得意なことを適切に把握し、日々の活動・生活場面において役割を持ち活動した。
・一歩チャレンジできるような風土を作り、取り組んできた。

4 主な活動計画

4-(1)活動参加支援に対する達成度・評価

・販売商品製作の役割分担を行い、個々の力を最大限発揮できる、販売商品製作を行った。
・年間で、自主製品において新商品を 2 つ考案することが出来た。
　製品の精度もあがり、製品受注を 2 度受けることができた。
・自立課題を通じ、それぞれが作業に達成感を感じられる課題を作ることが出来た。
　また、手先の細やかな動作は商品製作スキル向上に繋がった。
・季節の創作を通じ、館内の一部場所に月ごとに折り紙の創作物を掲示した。
　またパソコンを用いた作品作りを取り入れたことで、参加利用者の幅も広がった。
・スケジュール会議や販売促進会議では、それぞれが挙手して意見を述べる場を作ることが出来た。

4-(2)健康管理支援に対する達成度・評価

・午前午後の検温、個々の健康チェック、医務との連携をとりながら、体調管理を行っている。
・散歩や外出を通し、座位での作業に偏らないよう適宜、身体を動かす機会を設けた。
・運動は個々にプログラムを作り実施することが出来た。

4-(3)生活支援に対する達成度・評価

・日々、担当を交代しておしぼり準備・エプロン干し・席札片付け　など実施することが出来た。
　それぞれが役割を担い、取り組めるようにした。
・適宜、話を聞く機会を設けたことで、落ち着いて話せる場面を設ける事が出来た。

4-(4)家族支援に対する達成度・評価

・生活内における希望や悩み等を受け止められるよう面談や電話連絡の機会を重視した。
・常に変化のある状況に対し、いち早く気付けるように、対話に重きをおいた。
・体調面はもとより、心情変化など、個々の表情の変化に気を付けて対応をしてきた。
・通所ができない状況となったケースに対し、適度な距離感を保ちつつ継続な関りをもった。
　再開時には安心して利用ができるように、家庭と共有しながら進めた。

4-(5)コロナウィルス・その他感染症対策に対する達成度・評価

・常時、マスク着用・換気を行い、感染予防を徹底した。
・フェイスシールドやアクリル板を活動内容や昼食時などに活用し感染予防に努めた。

4-(6)その他の支援に対する達成度・評価

・活動スペースを 3 つに分けることで、余裕のある環境設定を行った。
・個別、共有スペースを使い分け、個々が安心して過ごせるようにした。
・自主製品レパートリーUP、自立活動の導入を行い、個々に活動を選び取り組める活動の幅となった。

D グループ

1 グループ概要

・行動面・生活面での配慮を必要とする、重複障がい（知的・身体・中途障害）の方々が在籍している。
・創作、紙すき製品作り、個別プログラムを中心とした活動を提供している。

2 重点目標

・ひとり一人が、持っている強みを活かせるよう支援する。
・身体機能の維持・改善に繋がるよう支援する。

3 重点計画

・指先を使った活動プログラムの提供を行う。
・個々にあった個別プログラムの提供を行う。

計画に対する達成度・評価

・指先を使った活動を中心に取り組んだ。
　創作・カレンダー作り、紙すき等、指先を使いつつ役割を持って活動できるようした。
・グループ移動の利用者 2 名を受け入れ、ご本人の心身状況に合わせたプログラム提供に繋げた。

4 主な活動計画

4-(1)活動参加支援に対する達成度・評価

・自主製品紙漉きの改良に取り組んだ。
　紙漉きハガキやポチ袋・メッセージカード。
新たに季節商品（クリスマスカード＆リース）を製作。売り上げアップに繋がっている。
・月 1 回の活動決め会議や調理の話し合いの場を設けイラストや画像を活用し意見発信に繋がった。
・個々に合った個別プログラムを実施し機能・体力維持に繋がった。

4-(2)健康管理支援に対する達成度・評価

・気候や気温の変動にも留意し、様子観察に努めた。
季節や服薬状況に応じ、発作誘発に繋がるケースもあった。
・身体状況の変化を感じた際は、医務・家族・各関係機関と連携を深めた。
　排尿機能不全により 8 月よりカテーテル留置の医療ケアが生じたケースがあった。
各関係機関・在宅サービス・医療と連携を図り、支援を継続している。
・健康維持に努め、病気の早期発見に繋げ、悪化せずに過ごして来た。

4-(3)生活支援に対する達成度・評価

・歩行や運動を通じ、役割も担いながら過ごしてきた。
・出来る事を継続的に行う事で、出来る事が増え、生活習慣向上・達成感に繋がった。
・ADL 変化により、A グループから移行する必要のある利用者を 2 月より受け止め。

4-(3)家族支援に対する達成度・評価

・本人、家族が望む「今後の生活」について寄り添うことへの難しさに直面した。
・職員間で話し合いを重ね「家族の想い」を受けとめ、次に繋がることができるよう支援した。
・生活の場を考え、相談が挙がった際に面談を設け、選択肢を伝え行動できるようにした。

4-(5)コロナウィルス・その他感染症対策に対する達成度・評価

・体調変化を早期発見できるよう、検温や表情・声等を通じ体調把握に努めた。
・換気や消毒、フェイスシールドの活用を継続的に行った。
・感染拡大もなく経過している。

4-(6)その他の支援に対する達成度・評価

・新卒利用者～70 代利用者まで、幅広い年齢層・障害特性のある方々の利用となった。
・2025.2～A グループより、ADL 変化のあった 50 代利用者が移行。
　移行期間にて、座席配置や対応の協議を重ね、順調な移行へと繋げた。
・誤嚥など、食事場面での見守り強化が求められている。
　看護師等巡回事業を活用し、歯科医師より摂食嚥下について評価の機会を得た。

医務

1 医務業務概要

・利用者の安心安全な日中活動支援。健康管理、医療処置、精神的支援
・職員の健康管理

医療ケア対応	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
	5	2	3	3	3	2

ケア内容	・胃瘻管理:6 名・導尿:2 名(自己導尿の介助を含む)・呼吸器管理 1 名 ・酸素管理:1 名・血糖測定:1 名　・インシュリン接種介助 1 名・気切管理 1 名 その他:吸引、薬液吸入、保清・皮膚保護、創処置、排便コントロール　等	
タイムケア利用	定期	1 名
	ケア内容	気切・胃瘻管理　服薬管理　　吸引　注入　保清　等
	不定期	無し
服薬状況管理	処方箋、家族からの連絡による服薬状況把握により確実な投薬に努めた。 処方箋の更新確認(予備薬の差し替え含め)は進まない状況変わらず	

2 重点目標

・異常の早期発見・早期対応
・利用者、スタッフとのコミュニケーションの構築

3 重点計画

・共通認識に基づいた個別支援

計画に対する達成度・評価

異常時早期発見・対応に努め、感染症拡大等の重大事故に至らず安全に日中活動支援が継続できた

4 主な計画

4-(1)利用者・職員健康診断対応に対する達成度・評価

利用者:各自医療機関にて健康診断を受け結果確認と必要時助言、経過観察を行った。
　採血・検尿・レントゲン　26 名　採血・検尿　6 名　採血のみ 13 名　未提出:25 名
職員:健診結果の把握・保管　必要時個別に助言・経過観察を行った

4-(2)在籍利用者への医療ケア対応に対する達成度・評価

・安定した状況で支援を継続している。
・上記表に示す

4-(3)医療ケア等の対応を要する一時ケア受け入れに対する達成度・評価

・安定した状況で支援を継続している。

4-(4)横浜総合リハビリテーションセンター理学療法士との連携に対する達成度・評価

隔月 6 回/年施行　　新規:　0　名　　継続:　9　名

4-(5)腸内細菌検査対応達成度・評価

喫茶活動に関わる利用者・支援員の検便(細菌検査):4 回/年«(陽性検出 0)

4-(6)感染予防等に対する達成度・評価

インフルエンザ予防接種状況　利用者　42 名　　職員　6 名(補助金交付)

喫茶 SUNSUN

1 喫茶活動概要

喫茶コーナー運営状況：月・火・水・金　週4日営業
製菓製パン状況：月1～2回水曜日に実施。5月・10月にパン祭りを開催
内部販売状況：注文・店頭販売継続、別館事務所での販売再開
各方面からの大口注文が年間を通して複数あった。
外部販売状況：各種イベント参加により販売機会を得た。

活動実績

カフェ営業	192日	喫茶年間売上	1,094,138 円
内部販売会実施	パン祭2回/他適宜	外部販売参加	21 回

利用者参加状況　活動参加者：13人（ひとり最大週2回）月：4名/火：3名/水：5名/金：4名

2 重点目標

「自分らしく働く」ことを実現に向け、経験の積み重ねを重視し新たな一歩が生まれるよう支援する。

3 重点計画

・個別支援計画書を元に、強みや得意なことを生かす。
・個々の「やりたい」「チャレンジしてみたい」という気持ちを大切に、ニーズに沿った支援を行う。
・働くことを意識し、作業への向き合い方やルールを体感し、様々な経験が積めるようにする。

計画に対する達成度・評価

喫茶コーナー定例利用もあり、接客に利用者が携わることができた。
ボランティア3名（内 1 名は高齢により年度途中で終了）の継続的なサポートがあった。

4 主な活動計画

4-(1)活動参加支援に対する達成度・評価

・前年度売り上げを参考とし、イベントに応じて、客層・人員を想定。
確実に売れる個数での製造・販売を目指し、食品ロスを出すことなく活動が出来た。
・年度内に配置職員の増員は叶わず。ボランティアの継続的なサポートを得ることができた。
・受注量が増えたことで、生産活動が盛んとなり、下準備等の工夫を行った。
・ゆとりのあるメンバー構成とし、職員・ボランティアが各利用者へ目を向け、個別対応ができるようにしたことで、個々のペースで活動することができた。
・物価高騰や発注量により、材料発注先の変更があったが、安定した材料確保・価格を上げずに製菓販売を行えた。

4-(2)商品生産活動に対する達成度・評価

・HACCP での日々の点検、利用者・職員は 3 か月ごとに検便を実施し、衛生面に取り組んだ。
・各種イベント販売、関係機関からの注文、利用者や地域住民からと多方面から注文を受けた。
・月1～2 回、第一・第三（水）にて、パン販売を実施。
利用者注文が多数であるが、地域住民の立ち寄りも少数ではあるが定例化してきている。
・5月、10 月にパン祭りを実施した。
・クリスマス、バレンタインには定例季節メニューの販売を行った。

4-(3)販売計画に対する達成度・評価

年間を通して、各方面より注文が多数あった。製菓詰め合わせの大口注文も複数あった。
そのため、製造活動が充実した一年であった。

4-(4)コロナウィルス対策に対する達成度・評価

製造においては、フェイスシールド使用の継続をした。
黙々と作業に取り組む姿勢から、喫茶内での感染はなかった。

4-(5)その他の支援に対する達成度・評価

HACCP を意識した大掃除を月 1 回実施。

4-(6)感染予防等に対する達成度・評価

感染症予防を継続して実施することとした。

せや活動ホーム太陽 別館 （一時ケア・ショートステイ）【生活支援事業】

1 事業所概況	
一時ケア（9:00～21:00）	ショートステイ（17:00～9:00）
登録者数 850 名	年齢 3 歳～79 歳

2 重点目標

(1)個々のニーズに沿った、柔軟な支援を目指す。
(2)利用される方が、安心・安全に過ごせるよう環境を整える。
(3)緊急時の相談には柔軟に対応する。

3 重点計画

(1)個々ニーズ把握に努めると共に、関係機関との情報共有を行い、世帯全体での状況を把握する。
(2)アセスメント更新を実施。定期的に本人の状態に変化がないか確認し、事故などを未然に防ぐ。
(3)緊急時の相談に対応できるよう、日頃より体制に余裕のある受け入れ状況の確保を目指す。

4 計画に対する達成度・評価

・ご家族の声に加えて、カンファレンスやモニタリングなどの機会を活用し、様々な視点から本人とその取り巻く環境への理解を深め、ニーズの把握に努めてきた。
・夏に登録継続確認のお知らせを配布し、登録者の見直しを実施。久しぶりの利用となる方については、その都度アセスメント更新を実施している。
・外部機関からの緊急利用依頼件数としては、児相1件、区役所2件、警察1件、計画相談事業所6件（いずれも実際の利用に繋がった件数）。相談内容としては、家庭での過ごしが困難なケースや養育者の入院、治療に関するものが多かった。

4 主な活動計画

4-(1)利用登録に対する達成度・評価

・事前の登録を基本とし、登録がない緊急の利用の際には、関係機関との連携による情報収集を行い、受け入れを行ってきた。
・登録の際に緊急時の利用を想定している方に対して、一時ケアでの体験利用を勧めることで、利用者特性の把握に努め、円滑な受け入れに繋げてきた。

4-(2)他機関との連携に対する達成度・評価

・区役所や児童相談所、学校やその他相談事業所など、各機関と連携を図り、ニーズの把握と支援を行ってきた。

4-(3)地域生活拠点機能の推進に対する達成度・評価

・宿泊の確保が難しい場合には、一時ケアにて対応を行ってきた。
・基幹相談支援センターと連携をし、将来の見通しや、そのための練習の機会としての宿泊を計画した。宿泊を年度内に行う予定であったが、利用者の方がキャンセルとなってしまったため、次年度にて実行予定となった。

5 会議運営

5-(1)職員会議に対する達成度・評価

・勤務状況により定例での開催が難しく、実施できていない月もあったが、その場合には都度必要な情報の共有を行っている。
・ケース状況を共有することで、優先的な受け入れなど、その家庭に合わせた調整、対応を実施することができている。

6 主な研修計画

6-(1)内部研修に対する達成度・評価

・虐待防止研修、身体拘束適正化に関する研修、意思決定支援研修と年間で必要な研修については実施できているが、その他支援現場で必要と感じている内容については実施できていない。次年度は研

修時間を確保し、定期的に実施していきたい。
6-(2)外部研修に対する達成度・評価
・生活支援主任会議に職員2名が参加している。他の地活との情報共有を行い、地域生活支援拠点についての理解を深め、法人内での事業推進に活用してきた。
6-(3)資格取得に対する達成度・評価
・資格取得に関する研修への派遣は実施できず。職員個々に合った内容を見極め、必要な研修への派遣や資格取得の促しなどを次年度は実施していきたい。

せや活動ホーム太陽　別館（おもちゃ文庫）【生活支援事業】

1　事業概況
地域の未就学の子どもをもつ親子が楽しく過ごせるスペースの提供。 子育てについて情報交換・交流の場。 季節に合わせた企画の開催。

2　重点目標
・安全に楽しみながら遊べる環境スペースづくり。 ・子育て中の親子の交流促進や情報交換の場の提供。 ・企画を通して楽しみや学びと親子の交流を深める機会をつくる。
3　重点計画
・利用層に合わせた安全な環境づくりや、おもちゃの提供・新規購入。 ・瀬谷区の子ども家庭支援課と連携をし、子育て相談の機会を設ける。 ・季節に合わせた活動の企画・運営を行っていく。
計画に対する達成度・評価
・おもちゃ提供については、年齢や遊びに合うようおもちゃを提供した。 ・今年度はおもちゃ新規購入まで至らずであったため、次年度の５月ごろの購入を目標とし、購入物のリストアップを３月に実施した。 ・子育て家庭の交流の場として活かせるよう、支援員との情報共有や、HP の定期更新など、おもちゃ文庫の周知に努めてきた。 ・季節にちなんだ企画を２ヶ月に一度ペースで実施し、初めての体験や学びとなるような機会を設けてきた。

4　主な活動計画		
(1)開館予定		
・平日（月～金※祝日を除く）の 10：00～12：00 開放。 ・企画の開催（不定期）		
4-(1)　企画開催に対する達成度・評価		
・実施企画内容・参加者		
７月・８月２回実施	夏まつり企画	：参加者１回目９名・２回目 12 名
８月	水遊び企画	参加者　２名
10月	ハロウィン企画	参加者　8名
12月	クリスマス企画	参加者　7名
3月	寒天遊び企画	参加者　４名
・実施企画に対しての評価		
・来館者数が減少傾向にあったため、おもちゃ文庫の周知を目的に、久し振りの企画を開催。 ・予約開始時から間もなく予約枠は埋まり、参加者からも良い評価を受けている。 ・一方で普段の利用者で参加枠が埋まってしまい、新規利用者の獲得には繋がらない部分もあった。 ・次年度も企画開催は継続し、おもちゃ文庫の周知を継続する。		

4-(2)子育て相談に対する達成度・評価
・主な相談内容の概要 　毎週火曜 10:00～12:00 保健士による育児相談実施を継続している。年間日数38日 ・機関連携の評価 　毎週支援者と顔合わせ、来館者増加を図るため情報共有を実施している。 　太陽での企画にも参加していただいている。
4-(3)コロナウィルス・その他感染症対策に対する達成度・評価
換気・室内・おもちゃ消毒は継続して行っている。
5　会議・連携
5-(1)会議計画に対する達成度・評価
・子育て応援ネットにて、別館としての参加はできていないものの、区の支援者を介して区内の団体との情報共有を行っている。
5-(2)瀬谷区役所、他機関との連携に対する達成度・評価
・企画のお知らせ配布を実施する中で、にこてらすとの情報共有、連携を図ることができた。 ・子育て支援者を通して、近隣地区の子育て世帯の状況やイベント実施などの情報を把握することができている。

せや活動ホーム太陽　別館　（余暇活動）【生活支援事業】

1　事業概況
・太陽別館登録者を対象に余暇の充実を図る企画の提供。 ・別館余暇、いっぽ+、スタンドアップと3つの事業を行っている。

2　重点目標
(1)余暇支援を通して、登録者の方とのつながりを持つ。 (2)企画内容の見直しを常に行う。 (3)新規参加者の増加を図る。
3　重点計画
(1)やりたいこと、行きたい場所などのニーズを把握し企画検討に活かす。 (2)新規企画の検討、提供を行っていく。 (3)新規登録者や、日々別館利用をしている方へ余暇支援事業利用を勧めていく。
計画に対する達成度・評価
・企画参加者や、別館利用者への聞き取り、企画ごとに応募者数の統計をとり、ニーズの把握に努め企画検討時に活かしてきた。 ・初実施の企画を複数行い、企画の充実を図ってきた。 ・初回登録の際に説明を行い、その後も利用者や関係者との話の中で、利用者の方のニーズに沿っている際には再度声をかけるなど、参加者の増加に努めてきた。

4　主な活動計画
4-(1)余暇活動実施計画に対する達成度・評価
・各月一回を基本とし、夏休みには学生向け企画を実施。春休みについて参加者の減少や、実施期間の課題から実施を見送っている。 ・いっぽ+、スタンドアップについては体制上の課題から実施を見送った。
4-(2)安全対策に対する達成度・評価
・応募用紙に家族の連絡先、お知らせに実施日の緊急連絡先として業務携帯を記載している。 ・緊急時の対応について起案書に明記、緊急時には上席者の指示に基づき行動を行う事としている。
4-(3)コロナウィルス・その他感染症対策に対する達成度・評価
・消毒用アルコールや除菌シートを活用し、消毒を実施している。

・各家庭や本人の意思に沿いつつ、問い合わせがあった際にはマスクを推奨している。

5　会議運営
5-(1)職員会議に対する達成度・評価
・複数の職員で企画の検討を行い、ニーズに沿いながら実現可能な企画の運営を行ってきた。 ・企画実施後は振り返りを行い、実施報告書を作成しファイリング、過去を確認できる状態にしている。
5-(2)その他取り組みに対する達成度・評価
・参加者や企画についての振り返りを実施し、職員会議にて共有を行ってきた。

余暇支援事業実施状況		
実施日	企画概要・対象	参加者数
4 月6日	まんまるウォーク	3名
4 月 21 日	ズーラシアに行こう	5 名
5月 19 日	オギノパン工場行こう	5 名
6 月 23 日	鉄板焼きをしよう	4 名
7 月 7 日	カラオケに行こう	5 名
8 月 8 日	鉄板焼き＆花火をしよう(学生向け夏休み企画)	4 名
8 月 22 日	いすゞプラザに行こう(学生向け夏休み企画)	2 名
8 月 25 日	ららぽーとでショッピング	5 名
9 月 29 日	スカイダックに乗ろう	5 名
10 月 20 日	八景島シーパラダイスに行こう	5名
11月9日	まんまるウォーク	3名
11 月 17 日	紅葉を見に行こう	5名
12 月 15 日	クリスマスパーティーをしよう	5名
1 月 19 日	カラオケに行こう	5名
2 月 16 日	みんなでお菓子を作ろう	5名
3 月 16 日	ショッピングをしよう	4名
	参加合計	70名

すばる【生活介護事業】

1　事業所概況（生活介護定員 20 人）			
契約者数：21 人	平均年齢：35 歳	平均障害支援区分：3.5	1 日平均利用：18 人
・受注作業を中心に行っている。仕事を通して、収入を得ることと余暇活動を通して社会参加に繋げている。			

2　重点目標

（1）一人ひとりの思いや希望に寄り添う。
（2）仕事をすることで収入を得られることのやりがい。
（3）仕事・余暇活動を通して社会参加。

3　重点計画

（1）一人ひとりの個別のニーズを把握し、本人の希望や達成したい目標を考え、個別支援計画を立てて支援していく。
（2）仕事を通して色々な作業を提供し、できることを増しつつ、仕事をすることで収入を得られる喜びややりがいに繋げていく。
（3）社会参加のツールとして作業の受け取りや納品に同行し、仕事の流れを学ぶ機会を設けた。余暇活動を通して公共交通機関を利用し、色々な経験をする。地域のイベントに参加してできるだけ多くの経験を積み重ねる。

計画に対する達成度・評価

・上半期には個別支援計画の振り返りを行い、目標についての評価をして、引き続き取り組んでいく支援内容の確認を行った。
・ボールペンとバネの受注作業は途切れなく仕事をいただくことができた。新たに耳栓のセット作業、腰ベルトの検品、封入作業の仕事の契約ができたことで、みなさんの作業の幅を広げられた。
・メンバーミーティングを実施し、それぞれが仕事をする意味合いの意見交換ができた。土曜日の外出では公共機関の利用や飲食店を利用して社会参加に繋げられた。

4　主な活動計画

4-（1）活動参加支援に対する達成度・評価

色々な受注作業を確保できたことで、それぞれに合わせた作業に取り組んでいただくことができた。難しい作業では工程を分割してだれでもができるように工夫を行った。一個一個の作業を丁寧に行うよう伝え、ミスも軽減できた。
ボランティアにより、フラワーアレンジメントの創作ではクオリティが上がっていて、駅販売や地域のイベントで売れ行きも良かったことで、かかわったご利用者にはやりがいを感じられた。
毎月のメンバーミーティングでは外出を決める他、テーマを決めて、それぞれが自分の意見、思っていることなど発信できる機会を設けた。

4-（2）健康管理支援に対する達成度・評価

引き続き、毎日の体温測定と月一回の看護師の訪問により、体重、血圧測定行った。多くの方の体重増加が心配が見られた為、看護師よりアドバイスをしていただいたが、意識を持てるまでは厳しかった。

4-（3）生活支援に対する達成度・評価

・日々の活動の中では自分でできることを増やせられるよう声かけをし、お手伝いをしながらそれぞれのペースを大事にした。

4-（4）家族支援に対する達成度・評価

・計画相談のモニタリングはすばるで行うことができたことで、ご家族と情報交換ができた。また必要時には個別で電話連絡をして、ご家族と連携を取りながら支援した。

4-（5）コロナウィルス・その他感染症対策に対する達成度・評価

・後期では職員1名、コロナウイルス感染があったが、事業所で広がることはなかった。今までと変わらずマスクの着用、手洗い、消毒を行った。
4-(6)その他の支援に対する達成度・評価
・11月にご利用者の希望により、初めて一泊のキャンプを企画した。あいにくの雨でしたが、野外でバーベキューもでき、楽しく過ごすことができた。ロゴハウスに宿泊したことで、それぞれが自分の食事、寝具を用意し、他者の手伝いをすることもいい経験となった。

5　会議運営
5-(1)職員会議に対する達成度・評価
・引き続き毎月の会議を実施した。 ・それぞれの分担している業務の確認を行ったことで業務のもれはほとんどなかった。 ・法人内、外部の情報交換を行ったことで全職員が把握できた。 ・利用者の個別ケースの話し合いと行ったことで職員が心一つに支援できた。
5-(2)その他取り組みに対する達成度・評価
・まんまるねっと、日中活動支援部会、地域力プロジェクト部会に参加して他事業所との交流ができた。 ・駅販売や地域のイベントに参加して地域の方との交流もできた。

6　主な研修計画
6-(1)内部研修計画に対する達成度・評価
・法人内の研修に参加して支援向上に繋げられた。 ・虐待防止委員会からのチェックリストを行った。意思決定支援について勉強会を実施、日々の支援に繋げられた。 ハラスメント防止のチェックリストを行うことで、改めて自分の行動を考える機会となった。
6-(2)外部研修計画に対する達成度・評価
・外部の研修では強度行動障害者支援育成研修を職員１名が受けられた。
6-(3)資格取得計画に対する達成度・評価
・今年度は職員の専門性を高めるスキルアップを目指せなかった。

工賃支払状況			
月	1人当たりの平均工賃額	1人当たりの最高工賃額	1人当たりの最低工賃額
4	4000 円	5100 円	1500 円
5	4600 円	5400 円	2300 円
6	4000 円	5000 円	2200 円
7	4900 円	6200 円	3000 円
8	5400 円	6800 円	2500 円
9	4000 円	5500 円	2500 円
10	5700 円	6900 円	2400 円
11	4900 円	6200 円	2600 円
12	5600 円	6800 円	3600 円
1	6300 円	7300 円	2700 円
2	4000 円	5000 円	2100 円
3	6000 円	7200 円	3200 円

ひらり【生活介護事業】

1 事業所概況（生活介護定員 20 人）			
契約者数18人	平均年齢：34.8 歳	平均障害支援区分：4.7	1 日平均利用：13.4 人
利用者内訳：男性 10 人・女性8人（うち女性 2 人が長期入院中）			
男性 1 人グループホーム転居の為、令和 6 年 10 月退所となった			
主な活動：創作、機織り、散歩、ドライブ、農作業等を実施。			

2 重点目標
(1)個々の自由な表現、発想を形にしていく。できることに目を向ける視点で支援する。 (2)「明るく」「元気に」挨拶を交わせる雰囲気を作り、利用者とのコミュニケーションを強める。 (3)地域開催のイベントへ積極的に参加し、社会参加の一場面を提供する。
3 重点計画
(1)個々の自由な表現、発想を自主製品や作品などに転換できるよう活動の種類を増やし、できること、得意なこと等の幅を広げ、強みを伸ばし通所への意欲につなげる。 (2)職員から「明るく」「元気に」挨拶を行い、ジェスチャーや表情等非言語的コミュニケーションを活用してコミュニケーション支援を行う。 (3)地域の販売や季節のイベントに参加し、他事業所地域との交流を深める。また、近隣への散策などに出掛け、移り行く四季を感じてもらい心豊かに過ごせる企画と時間を提供する。
計画に対する達成度・評価
(1)作品づくりなどの場面では、職員の干渉は最小限に抑え、利用者の自由な表現、発想を形にできるよう支援している。 (2)職員からの挨拶を丁寧に行い、声をかけやすい雰囲気づくりを意識してきた。言葉が出ない方にもジェスチャーや表情で伝えられた。 (3)地域のイベントや駅での販売に利用者と共に参加できた。散歩は気温の影響を受けやすく、夏場や冬場は室内での活動が主となっている。外に出られない時の過ごし方については次年度以降の課題となっている。職員配置への課題から断念せざるを得ないイベント等もあったが、他事業所の協力を得て委託販売などで対応することができた。

4 主な活動計画
4-(1)活動参加支援に対する達成度・評価
・活動に参加できない利用者に対しては個別で傾聴を続け、無理のない範囲で活動参加を促した。。 ・新規活動の考案について協議を続け、ボランティアからの意見等も取り入れた。 ・ビーズ製品づくり、オーナメントづくりなどに取り組み、今後はさらに工程を細分化して多くの方が携われるようにする。 ・週間スケジュールを再度組み直しており、次年度以降はスケジュールに沿った活動の提供を進める。
4-(2)健康管理支援に対する達成度・評価
・利用者の入退院、日中の支援の中で気になる事柄については訪問医を活用して相談を続けた。 ・年度中に看護師が切り替わっており、各利用者の特性や留意点を伝達した。 ・リーダー、中堅職員から新人職員へ様子観察のポイント、急変時の対応法を OJT 方式で伝えた。
4-(3)生活支援に対する達成度・評価
・職員の介入を待たれてしまう方に関して、支援の方法を統一し自発的に動けるような支援をした。 ・過干渉、行き過ぎた支援にならないよう本人へ配慮し、気づきを得るきっかけづくりを意識した。
4-(4)家族支援に対する達成度・評価
・職員配置への課題が生じ、連絡帳への記載を一時的に中断している。今後、再開に向けた準備を進めていく。 ・入所施設やグループホームとの新たな情報共有の手段として○×等で日中の様子を回答していく方法を取っている。今後も先方と協議を続け、必要な情報を正確に伝えられるよう書式を確立していく。
4-(5)コロナウィルス・その他感染症対策に対する達成度・評価

・基本的な感染対策を継続して行い疾病の予防に努めてきた。 ・体調不良者が出た際は迅速に対応し状況によって隔離、関係機関への連絡調整を実施している。 ・次年度への課題として、職員一人一人の衛生に対する価値観をすり合わせていく必要がある。
4-(6)余暇活動に対する達成度・評価
誕生会ごとに飾りを季節に合わせたものに変更して四季を感じられる工夫を取り入れている。 ・調理実習の実施には至っておらず、次年度以降の課題としている。絵画教室を楽しみにされている方は多い。 ・利用者からの意見も取り入れ、動物園とショッピングモールへの一日外出を企画することができた。 ・職員配置への課題が生じ、一部の方にはご理解をいただき、次年度以降で参加調整を行っていく。
4-(7)防災訓練に対する達成度・評価
・半年に 1 回の防災訓練を 2 回実施。職員、利用者共に緊張感を持って取り組めている。職員が少ない場面などで実際に災害が起きた際に課題となる部分も見えてきており、次年度以降は訓練方法の見直し、災害時に必要な備品の調達を進める。

5　会議運営
5-(1)職員会議に対する達成度・評価
・毎月の会議で、支援内容の見直し、環境整備への迅速な対応を進めてきた。 ・利用定員の確保へ向けた具体案について協議を続けている。 ・次年度への課題として、会議へ向けた事前の準備を各自で行い会議に臨めるようにする。
5-(2)朝・夕のミーティングに対する達成度・評価
・ミーティングに参加できない職員へは受付簿、業務日誌等を確認するよう伝達しており、必要に応じて口頭での情報共有も行ってきた。 ・夕方のミーティングに関しては送迎の関係で定時での実施が困難な日が極めて多く、次年度への課題となっている。

6　主な研修計画
6-(1)内部研修に対する達成度・評価
新人職員 2 人には支援向上委員会の企画する新人向け研修に年間を通して参加。都度現場で先輩職員とともにフィードバックを行い、効果を実感できている。 次年度以降で内部研修を行えるよう早めの計画を進める。
6-(2)外部研修に対する達成度・評価
・研修への情報提供から始め、各職員に参加へ向けた意思確認を行い、自発的な参加を促してきた。 ・外部研修後にフィードバックできる機会を設けられなかったことが課題として残っている。次年度以降は会議の場等を活用して他職員にも情報を共有できる場を設ける。
6-(3)資格取得に対する達成度・評価
・強度行動障害支援者養成研修【基礎】取得者 1 人 ・強度行動障害支援者養成研修【実践】取得者 1 人 ・次年度以降はサービス管理責任者【実践研修】の取得を目指せる状態の職員もいる為、早めの計画で取得へ向けた準備を進める。

ハートウォーム【共同生活援助事業】

1 事業所概況

ハートウォームⅠ
・定員 6 人、体験利用 1 室、今年度体験利用実施は無し
ハートウォームⅡ
・定員 6 人、空室 1 室
・入居に向けた準備を検討したが他利用者の移動含め整理が出来ておらず空室が継続
・共同生活援助利用契約者数：HWⅠ：6 名、HWⅡ：5 名
・平均年齢：HWⅠ：46 歳、HWⅡ:53.2 歳、平均障害支援区分：HWⅠ：4.1、HWⅡ：5.4

2 重点目標

(1)「意思決定支援」「合理的配慮」を意識した支援の統一を目指す。
(2)「安心・安定・快適」のある生活を支援、提供する。

3 重点計画

(1)グループホーム築年数に伴う住環境の見直し、修繕箇所の確認し対応を行う。
(2)BCP の運用について発災時を想定したシミュレーションを行い備えに努め、BCP 改定を行う。
(3)高齢化に伴い介護度が増す事への支援方針、方法の見直しを進める。

計画に対する達成度・評価

(1)支援の統一に関しては常勤職員間での情報共有を図る事が出来た。しかし、業務を応援職員に頼まざる終えない状況の為徹底がしきれていない状況でもある。
(2)災害時などの状況を取り入れると、利用者が理解する事が難しく逆に混乱を与えかねない為まずは従来の避難訓練を行ない利用者への配慮を優先した。方法の検討を次年度していく必要があると思われる。
(3)高齢の利用者の部屋に関しては 2 階から 1 階へ移動してもらう事で本人の安心安全を確保することが出来た。

4 主な活動計画

4-(1)2 館の安定した運営に対する達成度・評価

・相談事業所との情報交換、他事業所からの利用者に関する状況確認などから適応される方の情報を収集している。
・月毎の会議時に合わせたカンファレンスの実施により、介助方法を変更して変化に合わせている。職員補充に向けて、求人媒体への広告掲載を継続している。

4-(2)人材確保・育成に対する達成度・評価

・高齢化に対しては住居の場所の変更行い、介護保険の利用開始を進める事が出来た。今後は高齢サービスの導入を家族と相談しながら進めていく。
・後見的支援室の協力により事例検討を行い問題の共有、サービスの更なる検討が出来た。
・情報共有のツール化により支援方針の変更など逐次共有する事が出来た。

4-(3)権利擁護支援に対する達成度・評価

・瀬谷区基幹相談支援センターや、相談事業所からの情報収集により、サービス利用の変更踏まえた策を進めている。
・主に計画相談への状況報告を行い、利用サービスへの再説明や、新たなサービスの説明を行った。

4-(4)コロナウィルス・その他感染症対策に対する達成度・評価

・定期的に換気を行なう事と消毒、清掃作業を継続して実施している。
・帰宅時のアルコール消毒、職員の手指洗浄を継続して実施している。

4-(5)防災訓練に対する達成度・評価

・年 2 回の避難訓練においては HW1,2共に実施済み。水防法対象の HW2 は水害訓練として、垂直避難訓練を実施した。利用者も概ね落ち着いて行動することが出来ていた。
・防災用品としてランタンの購入検討が防災委員よりあり、HW1,2共に LED ランタンを購入した。

4-(6)体験入居に対する達成度・評価
・「瀬谷区障害者地域自立支援協議会」にある、グループホーム部会への参加から、状況報告と対応への具体策を協議している。 ・関係する多機関とも情報を共有して、体験利用に繋がるような検討を継続している。
4-(7)地域との交流・連携に対する達成度・評価
・自治の集まりだけでなく、近隣居住の方々と顔見知りとなれるように挨拶を継続している。 ・季節ごとにあるイベントの情報を得る様に地域自治会の方々へお知らせ資料を届けてもらえている。
4-(8)その他計画に対する達成度・評価
・計画相談との情報共有とケース検討を続け、協議を重ねている。 ・日々の記録を使いながら、情報共有と支援手順の見直しを続けている。

5　会議運営
5-(1)ホーム会議計画に対する達成度・評価
・勤務の調整がつかず令和 6 年は 7 月のみの実施となってしまったが、令和 7 年は 1 月より毎月ホーム会議を実施することが出来た。 ・ホーム会議を行う事で利用者の ADL の低下やそれに伴う介助などの意見交換を行う事が出来た。
5-(2)正職員会議に対する達成度・評価
・世話人、生活支援員双方に支援内容の確認、変更点の確認を行い、実際場面に対応している。。

6　主な研修計画
6-(1)内部研修計画に対する達成度・評価
・他事業所からの協力を得て、事例検討を 1 ケース行えた。支援の内容を変更、手立ての情報提供を実際支援へ生かす事が出来ている。
6-(2)外部研修計画に対する達成度・評価
・web の使用で工夫を重ねながら、幾つかの研修への参加ができた。 ・目指す、研修内容と参加回数を増やすための為の体制作りが必要である為、次年度へ繋げる様に検討を重ねる。
6-(3)資格取得に対する達成度・評価
・サービス管理責任者へ応募したが当選しなかった。研修は抽選となる為引き続き法人全体で調整しながら引き続き応募を行なう。 ・強度行動障害支援者養成研修　基礎　1 名　研修受講済み ・強度行動障害支援者養成研修　実践　1 名　研修受講済み ・サービス管理責任者実践研修　1 名　研修受講済み

法人設置委員会

研修委員会
1　重点目標
・法人全体の職員研修をキャリア形成＝キャリアパスを意識して企画実施する。 ・法人職員一人ひとりが職場定着して成長実感がもてるとともに、長くやりがいをもって業務遂行できるよう資質の向上を目指し、研修環境を整える。
2　実施計画
・どのような人材をどのような形で育てていくのか、そのために行う研修はどうあったら良いのかを、法人＝事業推進会議・支援向上委員会とも連携しながら、研修体系を整備していく。 　・中堅以上の職員、リーダー向け研修の充実を図る。 　・障害福祉分野における専門性を高めるアップトゥデイトな研修を行う。 　・研修ニーズ、研修受講体制を把握するため職場ヒアリング、全職員にアンケートを実施する。
計画に対する達成度・評価
・初年度につき、中堅職員以上向けの研修は支援向上委員会と役割分担して検討した。 ・専門分野別研修は各事業所単位での研修実施を確認し、委員会では障害福祉施策の動向に合わせ随時の情報提供を行った。 ・7～8 月に研修ニーズ、研修受講体制を把握するため職場ヒアリング（8 事業所）、11 月～12 月に全職員にアンケート（職員 61 名の回答）を実施し、今後の取り組みの方向性を整理・分析した。
3　主な活動計画
4-（1）委員会開催計画に対する達成度・評価
・法人との意見交換を踏まえて、法人の理念、研修運営方針、専門的人材育成のすすめ方を委員会として整理した。階層別研修のあり方は次年度以降の取り組みとして引き継ぐ。 ・職員アンケート調査結果を踏まえて、リーダー以上の研修を優先して行う方向性を確認した。OJT を行なえるリーダーの養成が急務であり、法人の人材育成策と連係していく。
4-（2）研修計画に対する達成度・評価
・内部研修にてリーダー向け研修を企画したが、日程調整がつかず次年度初めに行うこととした。 ・研修委員会便りを作成することにより、委員会の活動周知や研修への取り組みを伝えることができた。（R7 年度はじめ発行）
4-（3）協力機関・団体との連携に対する達成度・評価
内部研修・外部研修それぞれの有用性について研修委員会メンバー間で共通認識を深め、研修実施状況を調査。各種媒体で先進法人・協力機関・団体の把握をした。
4-（4）新たな取り組みに対する達成度・評価
・法人内部で事例検討会や学習会を企画するなど、グループスーパービジョンを通じて、主体性、専門性、協働性（チーム支援）を強化していく。 ・関係機関の・団体の情報を共有し、ニーズの高い「虐待防止研修」「意思決定支援」など他の委員会主催の年間計画とのすみわけを行い、研修委員会としての研修の枠組みについて検討していく。

法人設置委員会

支援向上委員会
1　重点目標
・キャリアパスを念頭に、組織力・支援力の向上を図る。 ・利用者・家族への対応・支援において、「技術」「知識」「意識」の 3 点から向上を図る。
2　実施計画
・2023 年度実施実績に基づき、研修内容のブラッシュアップを行う。 ・新任職員、中堅職員向け研修の充実を図る。 ・権利擁護領域として、「本人中心」の視点を踏まえた勉強会やフォローアップ研修を行う。 ・リスクマネジメント領域として、苦情解決・ヒヤリハット・事故の検証を通じ、予防的意識を高める。
計画に対する達成度・評価
・新人研修を通年実施した。研修内容に関しては、昨年度のものをさらに練り上げ実施した。中堅職員向けの研修については、研修委員会に引き継いだ。 ・権利擁護の領域として、「虐待防止について」の研修を委員会と協働にて実施した。 ・ヒヤリハットのアンケートを上半期と下半期で 2 回実施。事業所ごとに振り返りを実施。。 ・職員ハンドブックの見直しとして、権利擁護「意思決定支援」についてより分かりやすい解説を増やし、厚生労働省・県・市の資料も見られるようにQRコードを添付している。
3　主な活動計画
4-(1)委員会開催計画に対する達成度・評価
・新人を対象に法人の理念・職員心得など、研修を釣り返し行い、法人の想いをくみ取れるような構成を他事業所の職員と意見交換が出来るようグループワーク行っている。 ・福祉サービス・制度について活動ホーム地域の役割を踏まえての研修を実施。
4-(2)研修計画に対する達成度・評価
・新人研修～4・6・7・9・11・R7.1に 7 回実施 4 月　　新人オリエンテーション(法人理念、心得、法人の役割、意思決定支援) 6 月～9 月はーと塾(制度・サービス給付・コーチング・職員心得) 9 月　　虐待防止委員会と協働にて、虐待防止研修 11 月～1 月はーと塾(法人の想い・地域活動ホームについて) ・いずれもグループワークと取り入れ、意見交換、交流を図れるよう行った。
4-(3)協力機関・団体との連携に対する達成度・評価
・9月 4 日、虐待防止委員会と協働にて、虐待防止研修を実施した。 ・「制度」「サービス給付」研修について、基幹相談・相談員が講師となり実施した。 ・内容の検討・調整を含め協力を得た。 ・「職員心得」に関する研修では、本館・別館の先輩支援員がオブザーバーとなり参加した。 ・1 月のはーと塾にて「法人の想い・地域活動ホームの役割についての研修を行い、一年を振り返ってどんな気づきがあったか、これからどうしていきたいかを個々に話合っている。
4-(4)新たな取り組みに対する達成度・評価
・今年度は、権利擁護担当が、各事業所を訪問し「意思決定支援」についての研修を行っていて、支援向上委員会からの発信が弱かった。来年度はコーチング研修の中の一つとして「意思決定支援」についての研修を実施していく。

法人設置委員会

虐待防止委員会
・各事業所より、委員を選出し実施 地活部・地域部・相談部より1～2 名選出し、委員長・その他数名で構成 ・権利擁護の視点で、意思決定支援や虐待防止・身体拘束防止へ取り組む。 ・身体拘束適正化委員会も含めた開催とする。

2 重点目標
“利用者主体・その人らしく生活する”ことを念頭に、権利擁護の視点を学び続け、相互に気付きを得られる職場作りを目指す。
3 実施計画
・継続的な虐待防止、身体拘束禁止の意識付けを行う ・気付きを共有できる、正しく話し合いができる場作りを行う。 ・研修を通して“他人事ではない”ことを学び、日頃の支援の振り返りに繋げる。
計画に対する達成度・評価
・虐待防止の学びの視点を「意思決定支援」に定め 1 年間取り組んだ。 各事業所研修・全体研修と実施単位を、内容に応じて変え取り組んだ。 ・「不適切行為」についての議論、検証に努めた。 事業所の事例も積極的に情報提供し、自事業所との比較・振り返りができるようにした。 ・各職員での自己チェックシートの実施と結果の検証からフィードバックに繋げた。 ・各事業所での会議の時間以外に、意識付けになる様、メールなどの配信、日々のミーティング時間でも共有できる時間を作った。 ・他事業所の事例も積極的に情報提供して、比較対象として振り替えられるように情報を提供した。
4 主な活動計画
4-(1)委員会開催計画に対する達成度・評価
・毎月第三木曜日に実施し年度末研修へ向けては、1 月以降会議回数を増やし、企画・運営を行った。 ・自己チェックシートの活用方法を深める必要性があった。実施から出た内容をいかに実践していけるのかを主に協議していく必要があった。
4-(2)研修計画に対する達成度・評価
①新任職員虐待防止研修 9月4日(水)10:00～12:00 (40 分の研修・グループワーク実施) ・虐待防止の手引き読み合わせ(厚労省)、ポイントを押さえた資料・説明(基幹相談職員 資料確認) ・虐待防止に関する DVD(県央福祉会作成のGH想定のもの・初心者向き) ②虐待防止:支援員編自己チェック 8・10・12・2月に実施、相談員編自己チェック 1 月実施 身体拘束:各事業所単位で規定の読み合わせを実施 ③意思決定支援に関する研修 基幹相談・権利擁護担当より、5 月～10 月にかけ意思決定支援の基礎研修を各事業所単位で実施 3 月 28 日法人研修実施。(講義・グループワーク×2) ④今年度、外部講師は招かず。
4-(3)協力機関・団体との連携に対する達成度・評価
・基幹相談権利擁護担当より、2023 年度に実施された各地活の取り組みについて共有があった。 以後、意思決定支援研修に繋げた。 ・身体拘束等の適正化を全員で確認 ・情報を提供した後の振り返りと検証に時間を設けれるような仕掛けが必要であった。
4-(4)新たな取り組みに対する達成度・評価
・各職種において、現場に沿った内容で自己点検が行えるように、自己チェック内容の見直し実施。 ・支援員編では、各事業リーダーも参加し、各月テーマを設けチェック項目を多様化した。 結果を集計し、重点ポイントや傾向を周知した。 ・相談員編では、各事業リーダー3 者で内容を精査し、実施した。 ・各事項内容にある言葉の言い換え、文章校正を再確認しながら、シートの改善を行った。

法人設置委員会

ハラスメント防止委員会
＜委員会目的＞ ・ハラスメントの予防。ハラスメントのない職場づくり、意識づけを継続する。 ・職員が安心・安全に働き続けられる職場環境づくりを促す。 ＜実施内容＞ ・地活部、地域部、相談部、管理職１名ずつ計4名、毎月会議を開催 ・相談窓口への対応

２ 重点目標
・相談窓口の役割を遂行する。 ・全職員向け研修の立案と研修を行う。 ・主任以上の職員に対し研修の企画、実施を行う。
３ 実施計画
・ハラスメントに関する防止に関する啓発、研修を実施する。 ・相談窓口の周知・運営を行う。
計画に対する達成度・評価
・重点目標、実施計画通り実施できた。相談件数は０件だった。
４ 主な活動計画
４-(1)委員会開催に対する達成度・評価
・職場環境で気になることの共有や、研修内容、相談しやすい窓口を目指す等の検討協議をした。 ・チェックリストの集計、振り返りや、研修の立案、検討、準備等を委員で協力し行うことができた。
４-(2)研修計画に対する達成度・評価
・10 月～11 月主任以上の職員に対する DVD 研修を実施。パワハラ予防について考えた。 ・3 月の法人全体研修で全職員向け研修を実施した。パワハラセクハラの基礎や事例を学んだ。
４-(3)協力機関・団体との連携に対する達成度・進捗状況
・法務局人権擁護課に年度末の法人全体研修日の講師派遣について打診している。 ・法人の全体研修の日程が決まったら、正式に申し込む予定。 ・かながわ労働センターでも講師の無料派遣を行っている。次年度以降に活用を検討する。
４-(4)新たな取り組みに対する達成度・評価
・委員会便りを 3 回発行。5 月全職員向けセルフチェックリストを実施した。

法人設置委員会

広報委員会概要
1　広報誌『すまいり～』を年 2 回発行し、地域を含め他機関への広報活動を行う。 2　ホームページ管理・運営を行い、法人事業の最新情報、事業所情報を発信し周知範囲を広げる。

2　重点目標
・法人内のコミュニケーションを円滑に行う助けになるよう、職員、事業所、法人事業などの事柄を広報誌、ホームページなどを使って、情報提供する。
3　実施計画
・広報誌の内容検討とともに、目的と効果を再度検討する。 ・ホームページ更新を必須とし、更に利用効果を得られるよう変更修正を検討する。
計画に対する達成度・評価
・広報誌すまいりーの内容を検討しフェスタ終了後新人紹介を含め発行した ・事業所ごとのページ更新を各事業所へ依頼し、最新情報を伝えられるよう働きかけた
4　主な活動計画
(1)
目的　実施可能な計画の作成、役割分担 内容・開催月　　5 月(すまいりー職員紹介号と広報委員の今後の活動について)8 月、11 月、2 月
4-(1)委員会開催に対する達成度・評価
・すまいりー発行に関する委員会を実施した ・すまいりーは法人広報誌として発行し、各事業は独自の広報を利用者家族に行うよう確認した ・行事や日々の取り組みを更新できるようなホームページが望ましいが取り組むに至っていない
(2)
法人リニューアルから約 2 年が経ち、掲載されている内容を再点検する時期になっている。当初の各事業所の担当者も代わっているところもあるので、ホームページの担当も含めて更新の検討を行う。
4-(2)ホームページ更新についての検討に対する達成度・評価
・事業所ページにたどり着く見せ方の変更やトップページの見せ方で周知状況が変わる ・法人ホームページの更新度合いで求人応募状況に変化がある ・事業所の広報活動、法人としての広報が紙媒体、ホームページという手段とどういう対象者に向けた情報が必要なのか再度検討が必要

法人設置委員会

防災委員会
・地活事業部の各拠点及び地域事業部の各拠点より担当をそれぞれ 1 名程度選出する。 ・定例にて会議を実施して、目的に沿った課題の抽出や、必要な事柄についての検討を行う。

2 重点目標
・BCP 事業継続計画の周知、BCPマニュアルの検証 ・BCP マニュアルの検証を通じ訓練参加が難しい職員への防災への知識や意識向上へとつなげる。
3 実施計画
・事業継続、再開までのシステムについて、組織一貫とした検討を会議に取り入れる。 ・防災における啓発として DVD などの視聴、アンケートを実施する。 ・訓練参加が難しい職員へのアプローチを工夫し組織法人全体の意識向上へとつなげる。
計画に対する達成度・評価
管理職を交えた事業継続、再開までの流れについての検討が不足して担当レベルとなっていたので、管理職の積極的参加により事業推進会議での意見を取り入れることで組織一貫とした検討を継続して会議に取り入れていく。
4 主な活動計画
4-(1)委員会開催に対する達成度・評価
会議は概ね達成しているが、委員で話し合い毎月でなくとも良いという意見多数の為来年度は毎月若しくは隔月第 3 水曜日で実施していくこととした。
4-(2)事業継続計画周知・運用の点検に対する達成度・評価
BCP の作成が未完成な状況であったのでマニュアルの整備状況について、事業推進会議との連携を図り継続して進めていく必要がある。
4-(3)関連機関との連携に対する達成度・評価
消防との連携は訓練評価も受けているので継続していく。 他組織との連携にまでは至っていないので、民生委員などの協力を得て進めていく事とする。
4-(4)新たな取り組みに対する達成度・評価
DVD は費用も高額になることや多岐に渡る為購入はしない方向となった。 活用メディアとしては来年度より、よこはま防災 e-パークの web 受講を各事業所へ実施依頼することとした。

法人設置委員会

きょうされん委員会

・瀬谷区自立支援協議会関連と異なる外部組織との関連性のある唯一の委員会となる。
・委員会の役割、位置付けを考慮し複数年にわたる関わりを前提とした委員会活動としている。
・きょうされんの活動を周知できるよう、各事業所から委員の確保を行い、職員の意向を確認しながら委員の選出を行う。
・本来業務とのバランスを考慮し、会議は隔月とし役割分担のうえ、必要に応じ会議を開催する。
・主な５つの柱として①広報活動（法人内、地域への発信）②運動（国会請願署名や募金活動、集会への参加）③教育（学習会・研修会等）④物品販売⑤交流（全国大会への職員派遣、利用者の参加）きょうされん主催活動に協力する。

きょうされん委員会

２ 重点目標

①広報活動（法人内、地域への発信） ②運動（国会請願署名や募金活動、集会への参加）
③教育（学習会・研修会等） ④物品販売 ⑤交流（全国大会への職員の派遣、利用者の参加）
きょうされんのスローガン「あたりまえに働き　えらべるくらしを　～障害者権利条約を地域のすみずみに～」について情報発信を行う。

３ 実施計画

① 広報活動（法人内、地域への発信）：広報誌（きょうされんニュース）の。
地域への発信方法を検討し、きょうされんに対する認知度の向上、個人・法人のサポーター（賛助会員）の獲得に協力する。
② 運動（国会請願署名や募金活動、集会への参加）：国会請願署名への取り組み、街頭署名、募金活動、集会等、基本的な感染対策を行い協力する。
③ 教育（学習会・研修会等）：学習・研修会を企画する。
④ 物品販売：夏季・冬季販売に加え、バレンタイン＆ホワイトデーの販売に協力する。
⑤ 交流（全国大会への職員の派遣、利用者の参加）：職員、利用者の意向を確認し、全国大会への参加者を募る。

計画に対する達成度・評価

① 広報活動：広報誌の発行について実施に至らず。
神奈川支部から提供された情勢についての情報などを掲示した。
② 運動：4 月に利用者と街頭署名へ参加した。
以後の参加は職員配置上参加が困難であった
募金などできる範囲での活動へ協力を実施した。
③ 教育： 情勢研修開催時に委員担当職員を派遣した。
各部署の周知を進めたが本来業務との勤務の兼ね合い等から参加が困難であった。
④ 物品販売：実績夏季 120,850 円　冬季 96,800 円となった。
⑤ 交流：11月8日、9日に全国大会 IN 滋賀が開催。職員1名利用者1名が8日のみ参加した
日帰りのため時間に限りがあり、利用者は会場の雰囲気を感じ、他者との交流を楽しまれた。

４ 主な活動計画

(1)委員会開催

目的：情報共有・協議
内容・開催月：各部会からの報告、検討すべき事案についての協議など。開催月は偶数月の第 1 木曜日を基本として必要に応じて臨時の委員会又は担当者による打ち合わせなどを開催する。

4-(1)計画に対する達成度・評価

・委員会の開催日時：第2水曜日10：30～
・日中の時間帯で行えるよう調整を行なうも支援現場の職員配置に影響が出る状況が続き、全員参加での会議実施が例年以上に困難となった。
・報告や相談などは掲示板を活用したやり取りが主となり協議や共有が例年になく困難であった。

(2)新たな取り組み
・物品販売の際に、アンケートを同時に配布する。フィードバックを受けられる仕組みを作る。 ・「SUNSUN フェスタ」できょうされんの物品を販売する。 ・毎年テーマを決めて年 1 回きょうされん神奈川支部より講師を呼び「学びのセッション」を継続する。
4-(2)計画に対する達成度・評価
・新たな取り組みに関する実施に至らず、現状の対応に追われる状況であった。 ・複数事業所が集まり法人委員会として維持すること、一事業所で維持する状況も厳しくなった。 ・委員会活動について理事長含め協議し、委員会活動と法人業務の両立困難な状態と判断した。 ・委員会としてではなく、社会福祉法人としての使命「社会や地域への貢献」、法人理念に掲げている「障害のあるすべての人が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を住み慣れたまちでおくれるように、意向を尊重しながら、必要なサービスを総合的に提供されるよう創意工夫をする」を念頭に置き、障がいのある方も障害の無い方も安心して暮らせる地域づくり、当事者の意思表示、意思形成、意思決定への支援を今以上に意識し、意思決定支援の研修を通じ当事者一人一人の意思を実現するよう支援の実践を取り組むことが法人理念に基づく支援として行うことと確認した。

法人設置委員会

地域交流委員会

1 重点目標

地域のボランティア人材の有効活用に向けた仕掛けづくりや、地域行事への積極参加など、地域との一層の交流促進に取り組む。※ボランティア、その他の交流の在り方の検討

2 実施計画

地域行事への参加を検討していくにあたり、各事業所の地域参加に関する現状把握と職員への周知。
ボランティア受入の現状把握と整備。
地域交流の一環で、拠点施設の太陽本館地域交流室でのイベント企画

計画に対する達成度・進捗状況

地域行事への参加における現状把握や職員への周知は月1回発行の地域交流委員会たよりを通じて周知は出来た。ボランティアの受入れにおいても現状把握と窓口の一本化、育成等についても各事業所の事業を鑑みた整備を一旦した。一方で、法人から地域への発信や法人や活動を知ってもらう取り組みは委員会として出来なかった。

3 主な活動計画

目的

①法人内の各事業所が地域や自事業所などが主催の交流やイベントを開催、または参加予定を「地域交流委員会たより」の発行を通じて、まず職員に知ってもらう。
②委員会にて地活である太陽本館（カフェや交流室）に人を入りやすくしていくために必要なことを検討する。
③ボランティアの受入れについて現状の整備

内容

たより発行（R6.6 月から、月1）	ボランティア募集
ボランティア受入	マニュアルの修正（窓口、受入、育成、フォローアップ等）
ボランティアさんへのお礼	春休みイベント開催
開催：毎月第1水曜午後を基本として協議	普及啓発活動～障害の活動拠点地活太陽本館の PR

3-（1）委員会開催に対する達成度・進捗状況

① たよりの発行を概ね毎月実施でき、法人内各事業所に共有することが出来た。各事業所の職員がたよりに目を通していたか、また、どのように活用していたかなど詳細は把握できていない。
② 自治連合会や商店会など外側から見た地活のイメージについて知る機会があり、委員会内で共有した。委員会内で地域」の捉えをすり合わせ、何を地域に発信したいかの共通認識を持つことができた。また、現状の太陽本館に「地域」の方を多く招き入れるには環境整備が最優先課題とした。
③ ボランティアは各事業所が窓口となって募集、育成の方針としたため、法人としてボランティアマニュアル整備は現時点不要と判断したが、今後再度受入れの目的や目標を検討する必要有
現ボランティアへは年度末に各事業所から感謝メッセージ等を伝えることができた。
④ イベントの企画開催は、予算、準備時間の不足、対象者の絞り込みへの不安等から中止とした。
企画開催の目的や目標を十分協議できなかった。

3-（2）協力機関・団体との連携に対する達成度・進捗状況

・イベント企画においては、すばるのフラワーアレンジメントをツールとして検討を中止したため未達成。
・次年度以降、協力機関や団体と連携を検討する場合、基幹相談がもつ地域の連合自治会、商店会、区社協やケアプラなどとのネットワークを活用していくことが良いと思われる。

3-（3）新たな取り組みに対する達成度・進捗状況

・事業所によって主催イベントが地域との関わりや連携との意識がないことが見受けられたことから、各事業所における地域交流の捉えを確認する必要があるかもしれない。
・職員の入れ替わりも進み、法人の歴史を知る職員も少ないことから、勤続年数の長い職員が過去の地域との連携や取り組みで良いことは継承する機会があると良い。
・一方で、地域側の意識も変わってきていることを踏まえ、意識や取り組み方において変えてゆく必要性も認識しながら、繋がりをどのように広げていくかを主体的に検討していく必要がある。

TRY【法人地活・区連携事業】

1 TRY 概要

主に 50 歳未満の脳血管疾患や難病などによる身体障害や高次脳障害のある方を対象に、スポーツ活動の場を提供し、社会参加や交流を図ることを目的に活動する。また、福祉関係機関との繋がりを作り、社会参加・生活ニーズの把握を行う役割を担う。

2 重点目標

・参加者の自主的な活動を促す。他の場所でも通用する正式ルールでの競技を行う。
・トライ以外にも、参加者がサークルや大会への参加など自発的に他の活動に参加できるようになる。

3 実施計画

毎月1回第3水曜日に実施。毎月、期日を決めて参加者より申し込みの連絡をしてもらうようにする。
各回、参加者の中で役割を決め、参加者主体でトライを運営できるようにする。

計画に対する達成度・評価

・一週間前を目途に、参加者自ら、申し込みを電話かショートメールにて行う事が出来ている。
・毎回、参加者たちで準備体操を誰が行うのか決めて、率先して行っていた。

4 主な活動計画

4-(1)活動計画に対する達成度・評価

・参加者数(延べ人数・各回の参加人数)
4 月モルック(三ツ境大原第 3 公園にて実施)6名、5 月モルック 6名、6 月ラポールにてボーリング 7 名、7 月ボッチャ 4 名、8 月ボッチャ3名、9 月ひらりとのボッチャ交流会 4 名＋見学者 1 名の参加、10 月卓球(中屋敷地区センターの体育館)5 名、11 月卓球(中屋敷地区センター体育館)、12 月横浜ラポール主催「卓球の日」に参加 6 名、1 月輪投げ 5 名、2 月モルック 7 名、3 月モルックと令和 7 年度の実施についての話し合い 6 名
・10 月に区の障害担当より 20 代の方の紹介があり、見学を実施。参加申し込みをされて加入となる。
・今年度は卓球を中屋敷地区センターの体育館を利用し、横浜ラポールの講師を 2 名お呼びして卓球台で練習を行っている。卓球の日では、午前中のみの参加であったが、各自練習の成果を発揮されていた。

4-(2)自主的な活動への参加を促す計画に対する達成度・評価

・参加者が主体的に準備体操、チーム分け、ゲームの進行、得点の計算等、声をかけながら行っていた。
・用具の準備や後片付けも出来るところは、参加者も一緒に行っている。
・自立協の地域力プロジェクト「ボッチャ交流会」にご家族の送迎又は公共交通機関などを使い会場まで来ることが出来、TRY チームとして 4 名参加をしている。

4-(3)転倒に注意し、楽しくスポーツをする計画に対する達成度・評価

・その日の参加者の体調、体の動きに配慮をして、投げる距離を短くすることや立位が不安定な方は椅子に座って頂き、無理なく安全に行っている。
・天候や気温を考慮し、室温の管理、水分補給を行い、転倒のないよう動線の確保も行った。

公開講座【法人地活・区連携事業】

1 公開講座概要

・基幹相談、後見的支援制度に求められる成年後見制度の活用促進、将来の安心に向けた必要な準備として考えるきっかけを提供するため、テーマを設け開催する。
・内容に応じた講師を依頼し、講演会やワークショップ形式にて実施する。
・瀬谷区を中心に障がい当事者や家族、支援関係者等へ向けた開催周知し申し込みを受け付ける。

2 重点目標

・情報提供の機会に加え、後見的支援や基幹相談の利用に繋がるような周知を行う。
・福祉制度やサービス利用のない生活状況の方へ情報周知、参加促進となるよう周知先を開拓する。

3 実施計画

・テーマ、内容は、参加者アンケートの内容や、基幹相談および後見的支援にて求められる内容、個別の相談支援に対応する中で把握したニーズに合わせ実施する。

計画に対する達成度・評価

・成年後見制度の普及啓発という役割の原点に返り、テーマは多岐に広げず、成年後見制度についての理解をより深、えられるように、内容の検討や講師役の選定を進め、実施することができた。第三者後見人と親族後見人の体験談をメインとしたため、参加者は親近感を持ちやすく好評だった。一方で参加者は元々関心が高い方々であり、そうではない方への働きかけにも取り組む必要性を感じた。
・あんしんノートの書き方講座は、継続性が大事との講師からの助言を受け、2年続けて実施した。昨年度も参加された方、新たに関心を持って参加された方が合わさり、活発なワークショップになった。

4

4-(1)主な活動計画に対する達成度・評価

・テーマや実施回数を広げず、成年後見の体験談をメインに2回に分けて実施した。連続講座の位置付けではなかったが、両方参加されることで、参加者がより理解を深められる成果にもつながった。
・あんしんノートの書き方講座は、部屋の広さに対して参加者数が多かった昨年度の反省を活かし、同内容で2回の実施に分けたのでゆとりがあり、集中してワークショップに取り組める環境を作れた。

4-(2)開催場所に対する達成度・評価

・区の後援により、区役所の会議室は活用できなかったが、あんしんノートの書き方講座では、瀬谷公会堂の会議室を優先的に日程の確保ができ、利用料も減免にて実施することができた。
・天候の悪い実施日もあったが、あじさいプラザでの実施は駅から直結しているため利便性が高く、参加のしやすさにつながったと思われる。

4-(3)周知に対する達成度・評価

・今年度はテーマや内容から、就労支援の関連や若者支援の機関への開催周知は積極的に行わなかった。区内の福祉事業所の他、ケアプラザや特別支援学校(高等部)に重点的に周知した。学校が積極的に協力してくださり、若い年代の方も早くから親なき後に関心を持ち、多くの方が参加された。
・アンケートの集計では、周辺区、市からの参加者も多かった。置き換えれば瀬谷区で実施している事業だが、地元からの参加は多いとは言えなかったと評価する。そこへの「親なきあと」や「将来の暮らしの備え」などの働きかけをどう進めて関心を持ってもらうか、今後の課題ととらえ、取り組んでいく。

4-(4)新たな取り組みに対する達成度・評価

・各講座の後半で、瀬谷区の基幹相談と後見的支援室の紹介を行うにあたり、説明時に活用できるように、受け取り手が見やすく、汎用性のある独自のチラシをそれぞれで作成した。
・2回実施したあんしんノートの書き方講座終了後に、区ワーカー、基幹相談、後見的支援室の担当者がブースを設け、希望者がいた場合の個別相談会を初実施した。計3名の相談があり、基幹相談の活用や他機関との連携など、その後の介入支援につながったため、ニーズの掘り起こしにもなった。
・公開講座の内容と今後の展開を協議し、継続してきたテーマは後見的支援室で引き続き実施することとして区連携事業と切り離して取り組むこととなった。